

AMICOS

2

東北大学医学部薬学科



卷 頭 言

今日の如く、医薬の進歩した時代でも、病気の種類と発病の頻度は少しも減っていない。病原菌も特異な新型と化して、人間に対抗して来るものが多い。将来、医薬品を研究し、医師と共に人類を疾病から救い、守ろうとする聖なる仕事に従事し、人類の幸福と文化発展に最大の努力を惜まない我々が、この事実を直視し、新なる自覚と熱意をもって学問に立ち向わねばならぬ。

学問の道はあくまで峻厳であるとはいえ、真理に対する愛と、真理に基く勇氣はこれを征服する資格をもつものである。自己を棄てた真摯な態度と横溢した合理化・実証的精神は自然の真を看破し得る唯一のものと信じて疑わない。全身全霊を捧げて未知の真理を探究せんとする姿は全く尊いものであり、人間の魂が澄み切った青空の如く浄化される一時であろう。そしてこの様な生き方こそ、我々学生にとって、もっとも望ましいものであり、美しい清い人生を形成する一助となるに違いない。

歴史の示す如く、科学は実践的要求から生まれ、理論的体系を作る所に成立して来た。そして実践と理論は抽象的に分離されるものでなく、あくまでも結び付こうとするものであり、実践の発達に理論の発達を促し、理論の発達に実践の向上を来たすものである。かくの如き見地からすれば薬学の理論的研究が人類の疾病を除去し、快適な人生をもたらす秀れた医薬品を作り出す所に直結しているのである。薬学発達的一端を担うべく、我々は心の底より人類の幸福を希求し、我々の使命の重要性を深く自覚してあらゆる困難と闘って、ひたすら努力していきたい。

学生生活のより良き楽園の実現と完成とをめざし、又薬学を通して明るい平和な理想の国の建設に寄与せんという共通な目的をもつものが共に語り、考え、討論していく広場としての「あみこす」が専門課程をもつ来年こそ、学問的色彩の強い機関誌となる様念願するものであり、原子が分子、そして更に、高分子化合物と成長発展する如く、向上の一路を辿り、躍如たる熱意に溢れた名実共に秀れた機関誌となる事を信じるものである。

～編集部～

目 次

卷 頭	言	1
隨	想	総長 黒川利雄 3
敬 迎 の	辞	3
<hr/>		
特 集：座 談 会	—医学部名誉教授中沢先生を囲んで—	3
	生みの苦しみと楽しみ	薬学科教授 岡崎教授の回顧 32
	校舎問題解決までの経過	中野卓雄 34
<hr/>		
私 の 願 い		千葉祐広 8
発 癌 性 物 質		薬学科助手 岩口考雄 9
葉 の 歩 み		酒井格一 10
プラズマから人間へ		柴田徹一 12
医学に対する化学		小池克郎 14
<hr/>		
エッセイ：我々の進むべき道		我妻光吉 15
嘲笑と文化		草野源次郎 16
現代の悲哀		小池克郎 16
一青年の考え		児玉充生 19
思いつくままに		小嶋晃 19
クラスのこと		柳瀬良文 19
光太郎の詩を讀んで		及川節夫 20
寸 懐		永谷富子 21
孤 独 地 獄		山内郁 22
笑 い		早坂弘子 22
亀 の 甲		百瀬和享 23
雑 感		水柿道直 25
運命には逆らえぬ		佐藤実 27
あの深い荒谷のどこかに		M A 28
有 題		今江真理 28
あ の こ ろ の こ と		中村善次郎 29
誠実を貫くのは難しい		村田正弘 38
<hr/>		
故 郷：盛岡よいとこ		岩動淑子 23
<hr/>		
体 験：アルバイトを求めて		植松利雄 24
<hr/>		
創 作：失 恋		後藤正義 26
人 間 性		塩谷悟作 30
<hr/>		
追 悼：故一色考先生をしのぶ		39
<hr/>		
印 象 断 片		18.21.22.25.27.31
表 紙 説 明		戸引久雄 40
編 集 後 記		40



随

想

黒川利雄

三国史はわれわれ少年時代の愛読書の一つであった。魏、呉、蜀、の興亡の裏面史である。魏の曹操は北方西安に在り、呉の孫権は今の南京に都して中南支に覇をとえ、劉備は蜀すなわち四川省の成都にあって鼎立し天下を三分して争った。歴史は繰り返すというが太平洋戦争でも中国は三国史そのままであった。

魏は毛沢東の赤色政権、呉は汪精衛の南京政治、蜀によったのは重慶の蒋介石であった。

赤壁の戦に曹操は「月明らかに星稀れに鳥鵲南に飛ぶ」と歌って一敗地にまみれて北方に去ったが、一度大勝をほくした呉の孫権が先ず病に斃れたのは汪精衛が多発性骨髄腫で昇天したのと軌を同じくするものである。

南京城外雨花台の盛宴に呉の宰相周瑜の奸計をのがれた劉備は諸葛孔明を総参謀として蜀の天下をおさめたが、三国史演義中で最も大衆の人気を集めて居る点は蒋介石將軍が当時の中国青少年の渴迎の的であったことと通じている。曹操自身は中道で斃れたが三国時代の最後の勝利は魏の國であった点も西安に抛った毛沢東を思わせるものである。今や毛沢東治下の中国は新しい国家の建設に営々として成果をおさめつつあるときいている。

私は魏の曹操の歿後の悲劇の一コマを忘れることが出来ない。曹操の子曹植は文武両道にすぐれて居たので父曹操

は曹植を太子に立てようとした程であったがついに兄曹丕に後をゆずった。曹丕は魏の文帝と称したが、弟曹植の方を憎くんだ。

曹丕は弟の曹植を呼んでこれを殺すことをはかり、「お前は詩人であるから自分に対して二心がないならば今直ちに一詩を賦せよ、七歩あゆむうちに詩がならぬならば勅命に背むくものとして死をたまわべし」と言った。

ところが曹植は声に応じてたちどころに一詩をものした

豆を煮て持し羹をつくる
豉を瀝して以て汁と為す
箕は釜底に在って燃え
豆は釜中に在って泣く
本是れ同根より生ず
相煮る何ぞ太だ急なる

これが有名な七歩詩と称するもので、同じ父母から生れた兄弟でありながら一人は釜の中で煮られ、一人は釜の下のタキギとなって燃えているという切ない気持を詩に託したのである。兄曹丕は深く歎ずる色を示して曹植をゆるしたといわれている。

毛沢東氏はこの度の政変に血の雨清を行ったかどうかは知らぬが、まめからで豆を煮るが如き同胞相うつつ惨事は永久に見たくないものである。(東北大学総長)

岡崎先生へ

— 歓迎の辞 —

岡崎先生を私達薬学科学生一同心から歓迎致します。

長年おつとめになっておられました新潟大学から、あらゆるものが不完全であり、何かと気苦労の多い創設時の我が薬学科に来て下さいましたことは学生一同感激のいたりであります。

四月十四、五日、我が薬学科に相次いで不幸が起りました。校舎の焼失、一色教授の御急逝という悲痛な出来事があります。

馬小屋の様なみすばらしい建物でも授業は出来ますが、立派な先生なくしては、真理を探究すべく充実した学問をやることは、現段階としては不可能なことであります。この様に考えた私達は当時突然親に先立たれ、家もなくした赤子のような状態におかれ、みじめなものでした。

私達は現代の世の中から見た場合、社会の片隅に忘れら

れている無力に等しい存在であると知りながら、一致団結して、目に見えぬ大きな力に体当たりで行きました。

その後、いろいろの困難な事態に直面いたしました。諸先生の温い御援助と深い御理解と、そして私達学生の一一致協力のもとに、どうやら最大の危機を脱し、一応の解決を見ました事は、学生一同大變嬉しく思っております。

私達は数々の難事を体験することによって、創設当初の学生に課せられた使命の重大さを心から痛感せざるを得ませんでした。

私達の前途は決して容易なものではありません。しかし前途多難とはいえ、それにもまして、私達の進むべき道は一層希望に満ちあふれているものと確信しております。

微力な私達ではありますが、熱あり、力あり、温みのある先生と一体となって、必ずやこの難局面を見事突破し、東北大学医学部薬学科の存在を世に知らしめ、数々の立派な研究の成果を全世界に発表し、人類の福祉に貢献すべく努力する所存であります。

— 東北大学医学部薬学科学生一同 —

＝ 座 談 会 ＝

医学部名誉教授 中沢先生を囲んで

7月18日(金)医学科第1回卒業の中沢房吉先生を仙台、原の町にある国立病院に訪ねた。

「あみこす」第1号に御寄稿下された医学科第五回の卒業生の武藤完雄先生(現医学部長)の文章の中に「中沢先生との座談会を開いたら、同じ1・2期の学生として得る所大であろう」ということが書かれてありましたので、16日武藤先生を訪ね、先生の御紹介を得まして、中沢先生を訪ねる。

18日に約束するという快諾を得約束どおり、午後1時半に国立病院に先生を訪ねた。

問 お生れはどちらですか。

答 戸籍調べみたいだな(爆笑)、新潟生れでね、北海道に養子となり、柏崎の中学から二高に入った。こんな事云ってもしょがないな。

—何となく入学—

問 ではさっそくですが、当時の創設学科にお入りになりました動機をお話し下さい。

答 二高卒業後、東北帝国大学医科大学が出来たので、入らないかとすすめられ、おもしろいと思い、大正四年第一回生として入学してしまったわけだ。(ハハ……)

問 一回生としての心境はどのようなものでしたか。

答 入ってみて、二回生としての責任の重大さを感じた。何しろ、二回生というのは責任が重いですよ。

—当時の学生は老成学生が多かつた—

と云うのは、当時仙台には大学と云えば、東北理科大学きりなかったし、医学部を設けたと云つても、高等学校からの入学者は極めて少く、高等師範系統が多かった。現在で云う、中学—高校—大学と云ったコースを通つたものでないからして本当の大学生(?)ではない訳だ。黒田ちか子君等も相当の年だったし、云うなれば、つまり老成した大学生が多かった。校名は東北帝国大学理科大学と云つて、札幌農科大学(これは後北海道大学農学部になったが)が東北大学農科大学の中に含まれていた。大学に入った者が妻子を持っていたような訳だから、若い者とはちがう。だから大学生とはどんなものかあり方すら知らなかった。大体旧二高生は理科大学生等を軽蔑していた。

問 生徒の数は何人位でしたか。

答 一回生は五十名足らずだったが、帝大系は八十名が定員とされていた。専門学校は六十名だったな。戦争時など多い時では百名以上とつた事もあったよ。

—一つの世にも変らぬ世間の見方—

問 世の風潮は創造時の医科大学を東北帝大の一部と見なしていましたか。

答 世の人は、医科専門学校(第二高等中学医学部、仙台医科専門学校、東北帝大付属医科専門部)がそのまま大

学に変つたものとしか見なかった。東京、京都の大学とは一段下つた三流校といった見方に傾いていた。事実は医科専門学校の先生は退職したり、移転したり、助教授になつたりし、又制度も全くちがつたものだったが、建物が同じ関係から、医専の昇格化と云う見方が強かつた訳だ。

—実力以外にあり得ない—

問 この世間の見方について、当時の医科大学の学生は、どのように感じていましたか。

答 これに対して我々は大体二組に分れた。我々憤慨組は世の考え方を自分達の實力で打ち破つて見せる、と云う猛烈な愛校心をわかつた。一方では甘んじてさぼつたりしたものもあつたが、心あるものは自分達の實力で一流校にしようと思つて燃えていたのだ。

問 当時医科としてはどこがよいとされてきましたか。

答 医科に関して一流は、東大、京大、二流は九州(福岡医大)と三校が上げられ、金沢、熊本、千葉、岡山などの医専は段が違つて扱われた。とにかく我々、とくに二高から来たものはものすごい熱意に燃えていた。(これ以上の熱意を持って我々も勉強したいものです)

問 当時の教授の陣容は充実していましたか。

答 教授としては立派な人達一草壁、貞鍋、本多光太郎氏等が居たが、充実したものではなかつたな。それでも学生は全国の高校から(つまり一高~八高、即ち現在の東大、東北大、京大、金沢大、岡山大、鹿児島大、名大)来た。

問 創設時の講座はいくつありましたか。

答 大正四年九月二十日頃学校が始つたが、初めは教授も外国から帰つて来ない。病理学、解剖学、薬理学の先生がいただけだった。ぼく達の頃は高校三年、大学四年でインターンというものは特になつた。猛烈に勉強して、大学コースを三年半でやり、半年を臨床実験期とした。好きな臨床科目を二ヶ月、基礎科目を一つやる事になつてた。これは一年きりしかつづかなかつた。ぼくは内科二ヶ月、外科二ヶ月、細菌学四ヶ月を二月から五月の間にやつた(当時の卒業は七月だった。)

問 若い学生と老いた学生との間は如何でしたか。

答 高等学校出の若い人々は、当然老成した大学生と調子が合わなかった。尚更野心に燃えていただけに彼等とは合入れないものがあった。

—創設薬学科の立場—

問 現在創設時の薬学科と当時の医科大学と比較してみると、どういう感じをお持ちになりますか、世間の見方と違ったもの一つ。

答 一色君がなくなられたり、校舎がやけたりで、ある人達は、「薬学科が出たと云っても、某大と似たりよったりのものだろうし、東大の薬学部とは比べものになるまい」と云った見方も事実しているし、君達の立場はむしろ我らの立場よりもっとひどいかも知れない。我らの場合は設備等完備しないまでも、陸軍病院、県立病院（北四番丁）等はあったのだから。もちろん木造の病院であつたが、校舎は今の法文学部の二高の一部を間借りしていた。ここらは君達薬学科と似ているね。だが現在の薬学科より相対的によかつたな。

（現在に於ては、社会の一隅に忘れられた存在に置かれている。薬学科の存在を知らすべく、どなたか早く立派な研究をやってくれませんか、秀才である諸君に期待します。この記事を読む諸君よ、よくかみしめて邁進されまし）

—中沢先生のフアイト—

問 我々初期学生の参考としたいと思しますので、当時の先生の勉強方法をお話し願えませんか。

答 大学生とはどんなものであるかも知らない状態であつたから、結局何もかも知らない。休みに二高で一、二番の秀才が東大から帰って来るのを待ち受けて、五色沼でスケートをしながら、東大の様子を聞いたものだ。九月から十二月まではただ夢中で過したけれど、それ以後はいろいろ考えたね。彼等との接触で大部大学生活のあり方を知ったね。高校から独語はよく使つたが、大学に入ってから彼らは日常語も、独語にテ、ニ、オ、ハをつけた様なものだったから「ハ、ハ、ハ、大学とは独語をむやみに使う所かな」と考えた。ぼくは日本語訳のものを多くよんでいたが、彼等の話しでは、講義は独語だけ、ハンマーシュテン・ホヘミシュ一日五十頁一生理は「チーゲルミュテット」一日五十頁、解剖は「ラウゲル・ユブシイ」一日五十頁とのこと。とにかくおどろいた。「こいつは大変だ、とにかく読まなきゃ！」それから翌日講義があると倍以上もよんで聞いた。ところが驚いた事は、ほとんど先生の云う事が同じであつた。（目をまるくして見合す）（諸君は毎日新しい事を聞いている様な気がしませんか、全く耳がいたいですね。）新潟大に入った親籍の子供に参考書をやる際本をめくって見て、我ながら感心したね。どれも皆びっくり、読んだあとがついていたのには……。それ程に読んだのも目的は只「東

大に負けてはならない」と云う気持があつたからだ。このために本を読むくせがすっかりついてしまったが、その頃、二年先輩の東大生に合うと、「彼等の云つたそれ程本を読むなんてうそだし、第一図書を集める高い金なぞあるはずがない。講義を熱心に聴き、判らん事を図書で調べる程度だ」と云う事であつたが、とにかくでたらめを云つたにしろ彼等のおかげで、原書が早く読めるようになったのだから、感謝しなけりゃならんね、当時、帝国大生は日本語訳のものを読むことを輕蔑して、原書を読む事を誇りにしていたね。

問 先生が医学生でおられた頃は第一次欧州大戦のあとだと思いますが、独語の原書は豊富にありましたか。

答 いやなかつたね、なにしろドイツから本が来ないので古本を集めたものだ。しかしそれらをどの程度に読むのか、それを知らなかつた。（笑）

—立派な研究を権威ある雑誌に発表する—

問 話は別になりますが、専門的医学誌はいつ頃出来たのですか。

答 東大では大体教授は年をとつていて、停年に近かつたから、そう勉強しなかつたが、東北大では三十代から四十代の若い先生が多かつたから熱心に研究し、全国の大学に先だつて医学誌「Tohoku Journal of Experimental Medicine Sendai」apan即ち「東北実験医学雑誌」を創つた。これは研究論文を、英、独、仏のいずれかで発表するもので、昭和七年これまで黙々と研究を重ねて来た人々が、続々自分の研究をこの医学雑誌に発表し、諸外国と無料交換をして、価値を認められるように…外国からの機関誌が増すと共に、東北大の存在が世に知られるようになった訳だ。大体初めて発表すると反響があるものだが、この反応があることはその論文が認められたという事になるから、その論文に対して諸外国から個人あてに来る手紙は非常に価値のあるものだつた。年に六冊外国に配布し、加藤、佐竹の二氏が熱心に編集してくれた。加藤氏は現在仙台原の町国立病院々長。

（この誌「あみこす」が薬学専門機関誌になり、英、仏独語でどしどし各自の研究を発表し、権威ある世界的な

中沢名誉教授略歴

明治45年	新潟県立柏崎中学校卒業
大正4年	第2高等学校第2部卒業
〃	〃 東北帝国大学医科大学入学
〃 8年	〃 医学部卒業
〃	〃 助手（内科）となる。
〃 12年	〃 助教授に任命さる。
〃 15年	5月より2年間 ドイツ・伊・米国へ留学
昭和19年	医学部教授に任命さる。内科第2講座担当
〃 28年	医学部長となる。
〃 30年4月	〃 辞任
〃 32年4月	東北大学医学部名誉教授の称号を授与さる。

雑誌になってもらいたい。語学力の不足を痛感、あまりさぼるべからず)

問 こう云った種類の医学誌は、当時他の帝国大学にもあったのですか。

答 当時他の大学にはなかった。東大あるいは外国から原稿をのせてくれるようにたのまれた。東大はのせてくれるようなのだが、さすがに東大だ、東北大にならって同種の誌を出す事はしなかったが、名大、北大、熊本大、広島大などあちこちに同様のものが生れた。

一薬学の発展のためは一

問 初期の学生が必ずやらなければならないことは

答 まず何と云っても立派な研究だ。実際、学校での成績も勿論必要だろうが、名声を得るかどうかと云うことは研究にある。努力して勉強すること、卒業してからも研究をしっかりとどしどし立派な研究を発表すること、これが絶対に必要な事である。創設後、我が医学部は、建物は小さくても立派な研究により内容は充実したものとしてたちまち一流に認められた。

一薬学科創設の意義一

問 この辺で薬学科新設の目的とか云ったものを。

答 どうして薬学科創設が叫ばれたかという、医学には予防医学と治療医学とがある。どうしても治療が必要である。終戦時薬がない時、昔からの利尿剤、草根本種を薬として使ったけれども、分析する事も薬化することも医学の力では出来ない。そこで単に調剤するだけでなく、医科と一緒に研究する治療医学部部門がほしいと思った。優秀な学生が大学院で研究してほしい。東北は土地が広いだけに種々の薬草があるが、これを診断的に使うとしても、どうしてもそれらの分析、研究を専門とする薬学科がほしい。これが薬学科を新設するに至った目的である。学問も勉強法も未定のまま、第一回生あるいは第二回生として何とか苦労が多い。ことに物理学的基礎(特に電気部門)の上になった分析化学は進歩してトラットで焼いたりする元素分析だけではなくになった。物理電気を利用するやり方など様々である。

一仙台よいとこ一

問 仙台は静かで勉強するには全くよい所であると云う話ですが。

答 そうだね、幸い仙台は環境もよいし、遊ぶ物もあまりないだろう。(笑) まあスケート位だろうな。研究だがね、やり通すと興味がおきてきて、12時でも1時でも徹夜して、それが何よりの喜びとなってくるものだ。東京ではよく落ちついて勉強出来ないと言うが、相撲、野球、映画とやってたら忙がしくて、勉強するひまなんてないね。だから仙台にはよい人が集まるわけだね。ぼくは仙台のよさは適当に都会で、適当に田舎だということにあると思うね。山、川、海その他まあ文化施設もあるしね。

一伝統は五回生まででぎまる一

問 初期の卒業生の方には、どのような方々がおられますか。

答 一回にぼく、二回生に桂重次君、三回生に落山君、四回生に黒川君、五回生に武藤君がいたが、いずれも旧二高生でね。だが一回生はつらいね。大体五回生までで基礎はぎまるものだね。(五回までですか、これはうかうかしてられません。あと三回ですね、お互い顔を見合せため息をつく。)

一研究室に残れ一

問 卒業後大きく分けて、会社に分ける人と、研究に残る人に分けられると思うのですが。

答 卒業してからも、経済的余裕のある人は、研究室に残ってなんとかして実のある研究をしてほしい。そして薬学科の存在をはっきりさせることだ。注意をひく論文を「東北医学実験雑誌」に発表する事だね。

◆留 学◆

外国ではデンマークがよかった。満30才の春で博士で助教になり、すぐ文部省在外研究員を命ぜられた。そこでもやっぱり役に立ったのは本をよんだことだった。

一先生の人選の方法一

問 留学する時どのような人の所へ行こうと思いいになりましたか。

答 別に行くあてもなかったから、好きなところへ行きなさいと言われたので、「一番いい本を書く人の所へ行こう」と思った。そこで図書館へ、丸善から本をせっせと買ってよんだものだ。その頃は欧州戦争のすぐあとで、価格が変動していたから安い時に本を買うのに骨を折ったね。部厚い世界内科全書のみたりして、やっとピタリきたのがデンマークのノーベル賞受賞者のアウグスト・クロウだ。これ迄の医学は解剖医学が主だったが、その頃一歩進んで実験医学が勃興してきた。これは人間の状態を動物にこしらえていろいろ実験をしてみる学問だね。彼はその実験医学を扱った「毛細血管の解剖及び生理学」という本を出していた。これはかねてぼくが考えていた新陳代謝のことについて書いてあった。次のアルベルト・フィッシュル、ホット・フールドが候補に上ったとかく政府から資金を多額に出してもらっている以上何か国のためになる研究をしなけりゃならんだろう。全く不安だったね。何一つ実った研究も出来ず、悲歎のあまりインド洋にとび込み自殺をはかったという者もいたからね。

問 どの国へ最初に行こうと思いましたか。

答 デンマークでは言葉に困ると思ったのでまずドイツにきめ、7月に日本を立ち、ベルリンについた。言葉になれてから「組織培養」のオット・ワールドをターシンシュートの研究室にたずねた。ここの研究所の医学者達はヒトラーに追放されて多くアメリカに渡ったとのこと

だ。現在第一線で活躍している人も多だね。

問 オット・ワールド博士に会った第一印象を一つお話し下さい。

教授を訪ねる時には最も自信のある論文を持参する訳だが、彼はいかにも冷酷無情な人で「いかにも残念だが、自分は今忙しくて君と5分ぎり話すことが出来ない。君が私の研究所を見たいといわれるのは私にとって非常にうれしいことだが、何せ私は忙しいので講師に室を案内させよう」と講師を紹介して自分はさっさと行ってしまった。講師に案内してもらったが、研究がめんどろくさい上に難しいものだったし、同研究所には満一年以上いなければならないとのことであつたのでやめた。次アルベルト・フィッセルは親切な人だったが、研究があまり細かく、バイキン一つ入っていないような研究所であつたので、ぼくのような臨床家にとってはとてもつとまらないと思ったのでこれもやめた。

—デンマークにアウグスト・クロウ博士を訪ねる—

最初はアウグストクロウ博士の所へ手紙を出した。ドイツ語でね履歴書、研究目的、それから日本で博士の本を読んだこと、そしてどうか博士の弟子になることを許してくれるような内容の手紙を書き、弟子入りをたのんだ。さあそのあとのことが全く不安だつたね。返事がくるまで、そうだろう。これがだめならどこにも行くあてがないのだから。結局返事がきたよドイツ語でね。

問 その手紙の内容はどのようなものでしたか。

答 それはね「私をしたって訪ねて来てくれることは非常にうれしい。ただし自分は大した研究はしていない。しかし三月まで生物の液体の圧力を調べてみたいと思つているからよかつたら来てみないか」という内容のものでした。

問 返事はデンマーク語でお出しになったのですか。

いやデンマークでは独語より英語の方が必要だから、この手紙の返事は英文でくれとのことだつた。ぼくは英語の辞書と云えば英和と和英が半分ずつのこんなちっぽけな奴きりもつとらんだらう。(旺文社の豆単ぐらゐの古ぼけた小さな辞書を示す)和英辞書がなけりゃ手紙など書けっこないし、日本からは本一冊きりしかもつてこなかつたので、やっと日本の某製薬会社のドイツ支店の某氏から井上和英辞典をゆずりうけてこれを相手にして書いた。それから「生物体の液体圧力」なんて全然判らなかつたから、ドイツの本屋からプロテインなんかを買つて来て、一週間部屋にとちこもりきりで読んだ。なにせデンマーク語が全然判らない上、研究の内容までわからないのでは何しに行ったのか判らんだらう。それでおぼろげながら内容をつかみ、一応準備を終つてデンマークへ行った。

問 クロウ先生に会つた印象は

答 クロウ先生は五十年輩の非常に良い人であつたよ。

—一日五十頁の馬力で—

問 日本から何か書物を持って行かなかつたのですか。

答 日本語の書物はほとんど持って行かなかつた。持って行ったのは「デンマーク」についての本一冊きりであつた。それで、クロウ先生から研究の別冊を借りて読むことにした。初めは三冊ばかりかしてくれたが何せ薄いものだし、こちらは一日五十頁やつた方だから一晩の中にたちまち読み上げてしまう。次の朝「先生、どうもありがとうございました。この次も又どうぞ」といって返したら段々五・六冊まで借すようになった。それでもやはり時間が余つてしょうがなかつた。大たい二時頃まで読んだ。読んだとしても、八時九時頃までには充分間があるだろう。これには先生もびっくりしたらしい。日本人はものすごく勉強家だと奥さんに話していたそう。勉強家にも勉強家でないにもこちらはやむを得ずそうせざるを得なかつたのであるが……。読むばかりでなくノートに写しをとつて、先生の手許にある文献がなくなるまで書いたので、いつの間にかノートがこんなに重くなつた(両手を大きくひろげて示す)それが帰つて来てから全部頭に入つて非常に役に立つた。こんなことがあつたので自分のことをいうのも変だけれども、ぼくはアウグスト=クロウ博士にとつても信用された。あの1日50頁の馬力、即ち学生時代についた本を読むくせのおかげなのだが……。ここで三つの論文を書き、みとめられた。要するに大学4年間の本よみのくせがデンマークでむくいられたわけだ。

—おもしろい紹介状—

問 デンマークからどちらへ行かれましたか。

答 デンマークの次に再びベルリンに帰り、2ヶ月ウィーン大学に行くことにしたが、ウィーン大学の生理主任をしていたジャーリック教授に、クロウ先生が紹介状を書いてくれた。デンマークでは紹介状は開封で渡すので、その場で開いてみると「我が愛するジャーリックよ、君はここにおどろくべき勉強家の日本人を発見するだらう……」とあつた。(一同苦笑)

—何事も始めが大切だ—

問 一番油がのつた時期はいつ頃ですか。

そうだな、結局ぼくが勉強したのは、まだデンマークになれない、11月、12月、1月の3ヶ月だつた。あとはクロウ先生や奥さんが、言葉も出来ず、一人ぼっちで淋しいだらうと、オペラやダンスや食事につれていつてくれた。ウィーンでは遊んでばかりいた。つまり始めが大事だ。(強調する)

—薬学科学学生諸君へ—

問 先生が私達初期の学生にまず望みたい事と申しますと。

答 まず本をよむこと。今は英語の原書が多くなつていますが、英語、ドイツ語をほとんど同じぐらいこなせる必要

がある。フランス語は字引きを引いて、よめる程度でよい。僕達の頃と比較して、最近の学生の語学力はかなりないこと、これは痛感されるね。気の合った者同志だけで読書会をもって、論文をよむ会を作るとかして、何がかいてあるのか、わからんでもよいから、少くともせめて一日原書10頁はよんでほしい。2年間の教養部だけの語学では足りない。昔の3分の1きりやれないためか、それもあるがたしかに語学力は足らんね。ぼくの所へも専門課程の4年生が実習に来るけれども、患者のいう症状を僕等全部独語で書いたものだが、今の学生はドイツ語まじりの日本語で書いていて、それがあっていればまだしも、学術用語のドイツ語さえ間違っている者が多いね。勿論中には良く出来るものもあるけれど……。

問 現代の学生に医学的見地から要求する語学力はどの程度ですか。

答 僕等の頃は論文は、一応日本語で書き、それを自分で訳して、英国人なり、ドイツ人にみてもらったのだが……。今は専門的に翻訳している人がいるが、何だか医科に専門でない場合、意の通じない訳し方もあるだろう。せめて自分の言わんとした意が翻訳されているかどうか判る位に読む力を養ってほしい。

一物理学を学べー

問 応用学科たる薬学の性質上、その発展のためには当然他の自然科学部門の大きな力をかりなければならぬと思いますが……。

答 そうだなあ、語学の次は物理だね、分析でも、何でも今は全部電気だ。ぼくなどとても判らなくなっちゃった。どうしたってこれからは、物理、電気に基礎をおいた化学が必要だね。これまで思いもよらない微量の分析が出来るのも電気分析が可能になってのことだ。僕は以

前、腎臓患者を扱ったことがあったが、どんな薬でも効かなかったものだが、ある日診察にいくと大変良くなっている。何を使ったのかというと、ちょっとおどおどした様子でベッドの下を指さし、小びんの中に黒ずんで入っているアケビの水をのんだというので、さっそく薬理室で分析してみると、カルシウム、カリウムが多量に含まれているのが判った。その時はぼくも若かったから、カルシウムならあたり前だとばかりうっかり分析を終えてしまったが、今考えてみるとこれらの外に微量のもの一酵素の様なものがあったんじゃないかと思う。

一薬学の生命及び使命一

「薬が効くとは何か」というと組織がエンザイム即ち酵素とエンザイムによって、その働きを変えることだと云える。

組織、エンザイム、補助エンザイム、これを助けるもの、これがエンザイム、コウエンザイムを助けるもの、この部分を君達は研究しなければならないのだ。我々医学はある所まで理論を出して、それが実現した時の効用を信じながらも、分析の不完全さ、立場がないなどのためにみすみす中途ですてる場合が度々あった。アイデアは我々が出して、一緒に薬を作る。このことを目的として、我々医学にたずさわる者は薬学科の早期創設を念願してきたのである。

一薬学の発展のため手をとりあつて努力しよう一

問 最後薬学の発展のために一言……

答 結局何でも初めが大切だということ。一体1回生から5回生の間に学風は作られるものだし。その間に価値の如何も又決定づけられてしまう。薬学の生命がどこにあるか、それをはっきり見定めて、1、2回生としての立場を有利な面で、発展させてくれ給え。(編集部)

私の願ひ

千葉 祐 広

経験薬時代に見られた経験的知識に従って「薬」の眞實を鑑別する専門職人としての薬剤師が科学薬時代に入つて、薬剤師自身が分化し、基礎的研究に専念する薬学者、工業的生産手段を能率的に駆使する技術者、病院薬局に於ける薬剤師、医薬品販売に従事する市民の薬剤師等と専門化して来た。この様な薬剤師の分化に比例して薬学と他の学問分野との協力関係はますます深くなりつつある。例えば、一つの優秀な医薬品を世に送り出すために、如何に多くの分野の秀れた科学者、技術者を集め、と同時に複雑な大規模な研究設備、工業設備を必要とするかは周知の事である。生物学、農学、医学、物理学、化学一般の幅広い協力なしにはどんな優秀な薬品をも産み出し得ないといつて

も過言ではないだろう。この様な時代にあつて、わが薬学科が従来化学本位の薬学教育を避けて医学と薬学との融合を強化するという方針のもとに出発したのは全く当を得たものと思うのである。

所で、薬学に基礎医学を加えた専門科目を従来化学本位の薬学教育と同じ修業年限で履修するという事は、かなりの困難を伴うことなしには不可能に近いのではないだろうか。与えられた時間に比して教わるべき内容が余りに多くなるのではないだろうか。私のもっとも恐れるのは、基礎医学講義の際に、以前行われ勝ちだった形式的、通俗的な講義が時間の不足にかこつけておなわれる事である。兎に角、私は大学課程に於いて我々の一生を通じてそれのみで役立つ様な教育を受けることは原理的に不可能である事を思う時に、大学において医学と固く結びついた薬学の教育を受け、卒業後絶えず学問が将来どの様に発展してもそれにどれ程でも順応出来る様な基盤を作って下さる様、大学当局及び諸先生に願うものである。

発癌性化合物

岩口孝雄

病気の中でも医学のみでなく多くの科学者の注目を引いている癌は、未だに全治することは出来ず否それどころかどんな原因で発生するかさえ解っていない現状である。

何らかの原因で正常体細胞が変異して異常増殖細胞に代り変異細胞の増殖によって体細胞代謝が阻害されてしまう。至極簡単に見えるこの現象も、実は非常に複雑な生命現象を含んでいるので、現在の治療方法としては早期発見、外科的手術で癌組織を切開した後、癌の化学療法（不完全である）剤を使用して癌細胞の増殖を抑制するしか仕方がないのである。一方癌の原因を極めようとする多年の科学者の研究成果として、種々の発癌性化合物を発見し、その癌発生説も唱えられているが、それを実証する実験は殆んどない。昔からタール工業やアニリン染料工業労働者は癌になりやすく、前者は主に皮膚癌が、後者は膀胱癌が多かった。この事実で外的因子が癌発生の一原因であることは間違いない。19世紀の初頭から各国科学者はこの職業癌に対して関心をもち研究に従事したが、大部分が失敗に終わった。中で日本の学者、山極、市川兩博士がタールによる癌発生に成功したのは我々の誉れとするところである。即ち兩博士は、兎の耳にタールを塗ることによって癌発生に成功したのである。そこでコールタールから発癌性化合物を分離する研究が行われて、強力な発癌性を有する3,4-Benzopyreneを発見した。次に発癌性化合物の構造が解ると類似の多環性炭化水素類の合成が盛んになり、多くの化合物中1,2,5,6-Dibenzanthraceneは合成された代表的な発癌性化合物の一つである。又胆汁酸からも発癌性の強力なmethylcholanthreneが導びかれた。この炭化水素類の発見と相並んで、吉田博士はAminoazotolueneによるネズミに肝癌を発生させる実験に成功し、又bimethyl aminoazo-

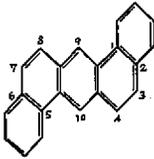
benzene (Butterye 110V)も木下良順博士によって発癌性を有することが解った。ここにアゾ色素類もタール性炭化水素類と共に重要な発癌性化合物となった。尚この他の発癌性物質としては後の表のようである。

この化合物中研究の盛んなのは多環性炭化水素類とアゾ色素類である。この両者は化学構造には何ら関連がないのに発癌性があることには変りない。炭化水素は皮膚癌、アゾ色素は肝臓癌というように、組織への親和性は異っている。故に種々の発癌性化合物で構造の違うものは組織との親和性の相違を示すものであり、発癌という機構に対しては何らかの共通点があるように考えられる。次に重要なことは発癌性化合物の有機化学的反応の活性位置と生体内反応の活性位置とが異っている点である。1,2-Benzanthraceneでは、有機化学的（特殊な触媒は使用しない場合）反応活性は9,10位であり、酸化剤によってその位置が酸化を受けるが、生体内反応では3,4位と4位が活性となるらしい。又Dimethylazobenzeneはアゾ結合のところが反応性に富んでいるが、生体内反応ではdimethylamino基の位置が最も反応活性であるらしい。即ち、生体内では炭化水素はK領域（phenantreneの9,10位に相当する位置）Azobenzeneではdimethyl amino基の位置が酸化を受けて一部は生体蛋白と結合し、一部は代謝解毒されてしまう。この酸化還元、蛋白質との結合、代謝の三過程の中どれが発癌に重要な役割を演じているかは全くわかっていない。最近発癌性化合物の電子密度の計算がなされ、その電子密度と発癌性も論じられているが、これは実証しなければ単なる仮説にすぎない。我々実験化学を志す者は、この実験的な証明を与えることが一番重要なことであろう。まずそれには、発癌性化合物の種々誘導体を合成しその発癌性の大小をテストする一方、化合物の物理的恒数又は化学的性質、反応性をも検討して発癌性と反応性の間に何らかの平行関係を見出すことが、発癌性機構研究上第一にやらねばならぬ重要なことではあるまいか。

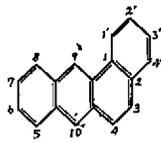
(表1) 主なる発癌性物質

1. 物理的なもの……紫外線（日光）、エックス線、ベータ線、その他放射線
2. 化学物質
 - 無機物質、砒素、ニッケル、クロム、食塩等
 - 有機化合物
 - 脂肪族化合物（ナイトロジェンマスタート、イペリット、エポキザイド）
 - (イ) 炭化水素 3,4-Benzopyrene, 1,2,5,6-Dibenzanthracene
9,10-Dimethyl 1,2-benzanthracene
methyl cholanthrene
 - (ロ) アゾ色素 Dimethyl aminoazobenzene derivate
o-Aminoazotoluene
 - (ハ) 異環炭化水素 1,2-Benzacridinemethyl derivate
Dibenzacridine
 - (ニ) アミン類 B-Naphthylamine carbazole
2-Acethylamino fluorene
 - (ホ) ホルモン類 Estrone, Dimethylamino stilbene

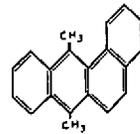
構造式



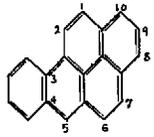
1,2,5,6-Dibenzanthracene



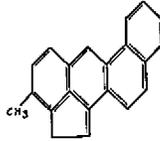
1,2-Dibenzanthracene



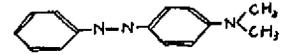
7,10-Dimethyl-1,2-Benzanthracene



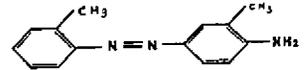
3,4-Benzopyrene



Methylcholanthrene



p-Dimethylaminoazobenzene



o-Aminoazotoluene

薬の歩み

酒井 格 一

現代の薬を理解するために、薬の生い立ちを知ることは、大切だと思ふ。それで大まかながら薬の発展の跡をたどって見よう。さてわが国の場合は天平時代以前の薬に関する記録は全くというほど見当たらないが、六、七世紀頃の薬学はもっぱら百済などの朝鮮半島の文化に縁をいたが、しかし大化改新以後は次第に中国の影響を受ける様になった。中国の薬の歴史はきわめて古く、すでに紀元前2780年と推定されるころ草をなめて薬を弁じた人といわれている神農氏と呼ばれる薬の元祖が記録されている。がしかしこれは恐らく個人ではなくそうした薬の採集、保存等の技術を持ち治療にも当たった職業人を指すらしい。わが国の薬の神は少彦名命で今日薬業の中心地、大坂の道修町東京の本町ではこの神を祭る行事が依然として行なわれている。

623年 恵日という薬師が中国から医方と本草書も持ち帰ったのを始めとし当時の留学生、外交官は盛んに中国の医療や薬に関する資料を紹介、導入したが、ともあれ祈禱呪術が病の治療とされて、二義的な薬は陰におしやられてしまいわが国の時物に見出される薬という字は信仰と迷妄世界、祈禱呪術から脱したものを指していない様だ。

唐招提寺を開いた有名な鑑真が中国から薬を持参し、その鑑別の方法を教えたが、その薬はどういうものであったかは今日に於ては正倉院に保存されている薬物によってのみ知り得る。昭和23, 4, 5年にわたって朝比奈泰彦博士を中心とする調査団は約1200年前の正倉院の薬物を調査した

その日附は756年となっていて薬物のリスト「種々薬帳」には60種の漢薬が記載されている。内訳は植物薬が55%、鉱物薬が35%、動物薬が10%で当時の本草書、医書に書か

れている実用的な葛根、麻黄、芍薬等が入っていない骨董品的存在のものが多分に含まれていた。例えば中国産の大黃(下剤)犀角(サイの角で削って解熱薬となす)没食子(虫糞で収水人剤)巴豆(下剤)等で中国東南アジア、インド、小アジアという広範囲にわたる産物であった。そのころ繁用されていた薬物がこれらの中に見当たらないのは、何かの機会に献上された、めったに手に入らない貴重品で宮廷でも大切にしていた御内度品ではないかと思われる。それは鉱物薬が35%もしめていることからわかるが、これは石薬と称しきわめて原始的で鉱物粉末を飲むらしく当時中国でも金持しかのめない様なもので我が国でも同様で、しせん庶民とは縁の遠い薬であることからわかる余談であるがいまも死亡通知に「薬石効なく……」と書くが、この石とは石薬を指している。

所で大宝律令にある薬園師、薬園生、採薬師の様な専門職の機能や、風土記に記されてある薬草の利用はあまりに普及されず施薬院の施設も首都に限られていたのであるから、その頃の一般人の薬はどの様なものか想像にかたくない。この様な状況のうちに庶民が自ら薬を獲得する必要にせまられた。その結果としてやがて民間薬なるものが発生して来た。この民間薬なるもの一例を上げれば、「ぜんそく」には「シジミをみのままに黒焼にして、白湯にて吞むべし」とか「常にクルミとシウガを粉にして用ふ」という今日考えて見ると笑止にたえないものであった。平安期に入ると事情はやや良くなり我国固有の薬の用い方を各国に命じて調査したという「大同類聚方」の編さん、年々進貢した薬品名とその数量の記入されている延喜式、或は東市に薬の店が出たという記録が見られ薬が一般化されて来た傾向がようやく看取出来る。鎌倉期には宋の留学僧によって薬が紹介され利用されたが、しかしこれは実証性の乏しいもので加えて僧が仏教と薬を同じ手で大衆に分け与えたのであるから、その真価はあまり高くないが布教と

共に薬が普及した事は確実である。室町期には、徒然草に「唐物は薬の他に用なし」と書かれてある様に唐の薬学をそのまま見ならつたらしい。次に江戸時代にはポルトガル人の来日(天文12年)以来、主として当時の内乱情況に必要な外科術が紹介されたが西洋の薬物はほとんど導入されなかったが、それでも少数、スペイン、ポルトガル系の薬名アマンティカ(豚脂)、ウニコール(一角獣の雄の歯でけずって解熱解毒剤となす)、シヤボン(石けん)、キナ、テレメン等が南蛮薬の面影をとどめている。実際に洋薬らしい洋薬は文政6年オランダ医官として来日したシーボルトによって導入された。それはアルコール、エーテルアンモニア水、硫酸水銀軟膏、キナ、ゲンチアナ(健胃剤)ジナ花(サントニンの原料)ジギタリス(強心薬)ヒマシ油、吐根等がその主要なものであるが、しかし一般には日本固有の漢方医薬が依然として広まっていた。この漢方医薬の特徴は診断と治療が分立してはず、この編人の病状は何々の薬の適当している病気であるといひ直ちに治療になってしまうのである。今例として「かぜ」をひいた場合を上げれば、今日では熱が出れば解熱薬のアスピリン、フェナセチン、アミノピリン、咳が出ればコデイン、エフェドリンの様な薬を誰でも一応使うが漢方はどんな薬を用いるか症状とそれに対する薬の配合を便宜的にならべて見ると発熱し汗出て悪寒し頭痛あるもの一桂枝湯(けいしの樹皮)。

頭痛発熱して、悪寒し汗なきもの一葛根湯(くずの根) 発熱して汗出て悪寒し首すじより肩の張るもの一桂枝加葛根湯(けいしの樹皮とくずの根)

頭痛発熱、汗なく悪寒し嘔気あるもの一葛根加半夏湯(くずの根とからすびしゃく〔テンナンシヨウ科〕の根茎) 頭痛発熱汗なく咳あるもの、身体のいたむもの一麻黄湯 発熱して汗出て悪寒し、咳あり腸部微瀉するもの一桂枝加厚朴杏子湯(けいしの樹皮とほほのきの樹皮とあんずの種子)

頭痛発熱、少しく悪寒し嘔気ありて食欲減退したもの、ねあせあるもの、胸痛あるもの一紫胡桂枝湯(ずいきの根とけいしの樹皮)

咳甚しく呼吸促進し泡沫様喀痰あるもの、頭痛悪寒あるもの一麻黄、乾きよう(しょうがの根を乾したもの)桂枝五味子(びなんかつらの果実)芍薬甘草(かんそう「マメ科」の根)細辛(さいしんの根)半夏(からすびしゃくの根茎)それ等を配合してつくる。

時々発熱し食欲なく渴して口舌乾燥するもの一紫故、黄芩(こがねばなの根)、甘草、生きよう(しょうがの根)半夏、人蔘、大なつめ(なつめの果実)

草根木皮を主として薬に用いていた時代は、人類の薬の歴史から見れば長期にわたっている。このことは今まで記して来たので理解されたであろう。薬の効果が立証されるには方法に於ても思想に於ても医学が科学性を十分なもの

としていなければならぬ。そういう理由から、薬をめぐって生命観、疾病観、物質観が宗教的なきずなから解放されたのは16、7世紀からである。この頃西洋ではウイキョウのアネトール、ハッカのメントール等の仕事は薬剤師が薬局で行うところとなり、数々の調剤や製剤も行なわれた。そのころ各都各都市が薬の処方を集成し公定書として刊行している。1817年になるとゼルチュルネルは阿片の効力本体たる一新塩基モルヒネ及メコン酸についてという論文を発表し麻酔性の本体は塩基で OCH_2N_2 を含む化合物であるということを開明にした。1818年にはマイスネルはかかる性質の植物の有効成分は一般にアルカロイド(アルカリの様なもの)と名づけることを提唱し今日でもこの名称は用いられている。このアルカロイドの発見は、即ち有効成分の発見は薬学者を非常に刺戟した。古来用いられて来た生薬、有毒植物等から有効成分を取り出す研究が一せいに始まった。フランスのペレチュ、キャベントウの二人はキナの有効成分を抽出するのに成功した。次に有効成分の発見のもたらしたものはそのものを合成し得るか否かの点であった。合成はすでに1800年頃には、有機化学者の確信する所であったが1828年にペラーが尿素を合成してから、自然物にある物質も合成出来るという見通しをつけさせた。19世紀前半成分の発見と合成という収穫にぎわいつつ薬は新しい形態で成分を薬局で製品として提供することが始まり、薬局は小工場となりいろいろな成分の製造に当たるところが種類が増して来て何もかも作るわけにも行かず或る系統、或る種類の成分薬を作る専門分化が起って来た。例えばドイツのエンゲル薬局は早くも1832年~1834年にはモルヒネ、キニーネ、エメチン(吐根の成分)ストリキニーネ、サントニン、コデインを表品として売り出し、これが今日のメルグ社となった。わが国での有効成分の研究はおくれて着手され1887年に長井長義博士が麻黄の成分エフェドリンの結晶を取り出し化学構造を明らかにし世界の注目を集めた。同じ頃フオン・ホフマンは石炭タールからベンゼンを発見した。このベンゼンこそ有機化合物を続々と作らせる出発点となったので彼の功績は大きい。

1856年イギリスのパーキンはアニリンを酸化しモーベインという紫色の染料を作ったが、これが合成染料の始めである。1865年分子構造論の草創といわれるケキュレはベンゼン環について「ヘビが尻尾をくわえてぐるぐる」と輪になって廻っている」と考えた。この着想からベンゼンが「炭素原子六個をつなぐ輪環」として学会に発表し注目を引いた。

タール工業の主産物で合成原料の出発点として重要なこのベンゼンがケキュレにより分子構造を確定されたことは有機化学発展の骨子となった。1900年代になりフランスのトレフェル等の貢献でスルファミン即ち、スルファ剤が発見されその後10年間に実に5,500数10種のサルファ剤が世界各所で合成されその中からサルファゾール、サルファグイアジン等の化膿性疾患細菌性肺炎の治療剤が見出されホ

モスルファミン（破傷風えそ菌に有効）プロミン、プロミゾール（ライに有効）も発見、抗菌性の幅を次第に広げて行った。この様にサルファ剤という一つの特異な化学構造がいかにして細菌発育を抑えるかと問題の研究を促進し代謝拮抗の理論が生れた。

これは細菌の発育に必要な因子とせり合ってその能作を奪う物質が化学療法剤の性能を持つと見られる様になりその所産の一つがパラアミノサリチル酸（PAS）である。1940年以後の抗生物質の発展はサルファ剤の進歩を覆う様な観が有ったが1946年にドスークは、たゆまぬ合成抗菌剤の研究をし、その結果チビオンを発見し、やがて、この系統の研究が1950年のアメリカ、ドイツに於いてイソニコチン酸ヒドラジッドの発見に到達するのである。

20世紀を迎えて急に伸び出したものにホルモンがある。1900年にニューヨークで高峰謙吉と上中啓三は副腎から苦心の末アドレナリン結晶を取り出しその後2年ばかりしてスターリングベイリスが腺液分泌の実験である器官から血液に入って血行により、特定の器官を刺戟して働かせる物質の実在を証明した。この様な物質にホルモン（刺戟）と名づけられた。その後続々とホルモンは発見され1915年には甲状腺のサイロキシン（発見者ケンダル）1922年に膵臓のインシュリン（バンチング）1929年は女性ホルモンのエストロン（ドアジー、ブテナント）1931年に男性ホルモンのアンドロステロン（ブテナント）1936年には副腎皮質ホルモン（ライヒスタイン）という様にホルモンは取り出され化学的に生物学的に研究された。

ビタミンもホルモンと同じ様に、その欠乏症に向けられ鈴木梅太郎博士は我が国が日露戦争の爾後富国強兵論の景気のよい時代に日本海軍が当時毎年千数百名の脚気患者が発生するのに注目し、米の蛋白質の栄養価の検討に着手し1910年アルコールに溶けるヌカの成分を追究して、それが

動物の発育に必要な量欠けると脚気になるという有効成分をついにつかみ出し、これをオリザニンとしたが今日ビタミンB₁と知られているのはこれである。ビタミンは生命に必要なアミンという意から起った言葉であるが抗脚気因子のヌカの有効成分がアミン性であったからそう名づけられたのである。

その後各種のビタミンが発見されるにつれて化学的にアミンに限らず種々の性質のものも有ることがわかった。

この様に薬は進歩して来た。そして今ではもう万能薬が出来たのではなからうか？と言う様な疑問が起って来る。が万能薬は勿論いまだにその影も見せない。老化防止としてメチオニン、コリン等の肝機能にプラスする薬も出来、毛細血管の弾力を保持させるためにルチン剤も現れ、ビタミンB₁、B₂、D、E等の必要なものが配合された栄養剤も出来、直接に高血圧や脳溢血予防のための血圧降下薬レセルピンや止血剤アドレノクロム等の薬も出来はしたが、しよせん老化防止さえその万全は期しがたい。又かつて若返りに効果あるとして脳下垂体埋没療法なるものが流行したが、脳下垂体は老人に於いて性器副腎よりも最後まで活動する内分泌器官でありコウシの脳下垂体をほんの少しばかり使っても若返りに効果なんぞなく、ただ悪徳医のみがホルモン流行と老化防止期待の人々に乗っただけであった。

ともかく最近の様に精神と身体との相関がよく解明され精神身体医学が確立するに至ったからには薬も又新しい発達をとり治療のみでなく、予防薬等の確立によって、新しい薬がどんどん生れることであろう。

附 記

以上今まで述べて来たことは、薬学歴より見れば、氷山の一角に過ぎなく、記外のもっと大切な事項が有るかも知れませんが、一応限られた頁で書くのですから御許し願えれば幸です。なお、薬の歴史に興味のある方は「日本薬学史」を御読みになれば良いのではないのでしょうか。

プラズムから人間へ

柴 田 徹 一

私は今、今春にあわただしく起った、校舎及び先生等の諸件について考えてみるに我々自身が我々の学科の将来を握っているという実感を再びここで強く感じるのです。

私を含み我々の学科の全学生一といっても80名足らずですが、それが、一致団結して、討議し、行動して、それにより武藤医学部長をはじめとする医学部の各教授さらに黒川学長をはじめとする東北大学の多くの教授諸先生方に我々の学科の立ち向っている諸件について理解して戴き、又さらに御協力御援助迄も戴けたのです。御蔭で早々に岡崎主任教授を迎え、又その他色々の悪条件が重なっていたのにもかかわらず、上記の先生方の暖かい御理解と強い主張と

により早くも新しい教室も立派に建つ事となったのです。

この様な暖かい大学内外諸方面からの支援により、薬学科も急速に生長して行く事となったのです。いやこれらの御支援と共に薬学科の内部に強力な力、意気、今後の学科を決定する原動力が、今しも爆発仕かけているのです。

この様な日本の次世を担う我々の学科の青写真を考えてみようではありませんか。

教授、助教授、助手等の研究スタッフに於いては、広く人材を求め、旧帝大という枠に嵌らず、国立、公立、私立を問わず本人の能力、将来性、教室の発展性を考え、基礎の出来た独創性に秀出た一人頭の軟かい若い人々（20、30代）一が希まれるところではないでしょうか。

この点一部では就職との関係を憂慮する人が居る様ですが、この際は次世を担う強力な人材を製造する事を主眼とした増設目的を重視すべきです。就職が思わしくないというのは云わば国家の問題で、計画性のない国家経済政策の

欠陥ともいうべきもので、末梢的解決はどこかにむりが来るのです。まずその根源を解決しなければこのまま国家の弱体化を、破滅を招く重大な問題ではないでしょうか。

さて本論にもどり、教室のスタッフを揃えるにあたっては、本人の生活の安定を第一に用意しなければ絶対に優秀な人材は集まらない事必須です。すなわち良き環境の住宅の確保、給与の安定等諸々の事です。その為には例えば川内の住宅の確保、予算の確保等は必ず必要です（この点新設学科は忍従を強いられがちであり又費用は他に流用されがちであるとの事）

さてこの様にして優秀な人材を集めても教室内の雰囲気これがこれ又大切な事ではないでしょうか。

元来大学という所は最も進歩した頭脳をもちながら、学内に於いては最もひどい封建性、悪らつな子弟関係、みにくい学 争い、陰気な感情問題、湿っぽいジメジメした空気等、外には大学の自治を呼びながら内にはこの様な旧弊を温存している世界だという事です。（その為教授が人選に当っては性質、人格、協和性、指導力等を重要視せねばならないこの事です）

折角教室の隅の方でこの人にしか出来ない独創的なideaが出て、有形無形の圧迫等で日の目を見ないで消え去る事が往々にしてあるとの事です。

しかし我々の薬学科には新設学科の強みで悪弊など温存しないで、スッキリとした教室にしたいものです。

“事”が学問上の事となったら、教授、助教授、助手等の区別なく、自分の確信する意見を、それが如何に微細な事であっても主張出来、又一方他の人の意見も良く聞きトコトンまで討議出来る雰囲気を作るべきです。その中には第3の意見としての道が開ける場合がよくあるものです。

お互いに理性に照し合せ、相手を尊重しあっているうちに自然に出来た尊敬とか友情とかを基礎にして教室を組立てて行きたいものです。教授の鶴の一声で全てが決定されるなんというのは言語道断です。

真の学問をする者の集りのあり方のモデル、手本を作ろうではありませんか。

ここで教室の構成如何すべきでしょうか amicos 第一号には7講座制目標を書かれてありましたが必ずしも講座制が絶対だと云うわけではないと考えます。

近年の科学の方法は方向を変え個人個人の研究から総合研究、共同研究などというsystemが多くなりつつあるのではないのでしょうか。それに相応した方法で、例えば教授を学科別に何名と置き他の他の座をfreeとして、他の部門外部からの臨機応変な人材をすえる方法

講座制にしたとしても必ずしも従来の東大、京大等にとっている区分法が絶対だとは云えないのではないのでしょうか。上記の東大等の講座区分制定から科学、化学は急速に進歩し衰微するもの隆盛するもの、今後どうしても大切な方面など、将来性を考えて医学へ寄ったとか有機化学へ片

寄ったとかというのでなく、行く末を見透して、東北大薬学科式講座法をあみ出すべきです。新設学科でないこの様な大裁断は決して下せないものです。これをもって範とすべきものを先んずべきです。

一方研究機械器具等は安物買いの銭失いの方法でなく出しおしめせず、計画的な基礎的なものから次々と順を定め教室員の合意の下に購入すべきです。

さて話を転じて学ぶ方の学生の立場について考えてみたい、学生の中には大学を一種の就職の為の手段とするものが居る様ですが、たしかに就職に有名校大学卒のレツテルが必要な事となる事はわかりますが、最高学府たる我々薬学科にはいくら応用学科だと云っても一応任せて、自分の他から比較してめぐまれた環境を十二分に生かす心がまえと努力が必要であり、又それがこの学科の学生の義務でありたい。

ここで問題となるのは女子学生の立場です。いわゆる嫁入道具としての薬剤師免許状を得る為にとか、大学を出る為の手段として女の人に適しているとか、常識としてのあるいは箔をつける手段として我々の学科を選ぶという事は絶対にあってはならない事です。国立大学は国民全体の為に有益な産を為す人々の為に、貧しい国家予算から教育費を計上しているのです。単なる免許状は我々の学科以外の私立大学等でその為の勉強をさせて下さる所がいくらでもあるはずで、学校内にあっては、目的は真理を追求する心にあるのです。厳しい学問の道があるはずで、目的が他のものにあってははいけません。

ここに於いて我々の薬学科に“女の人”が多い事は一面には良い面がありましようが、目的、卒業後の結果、心がまえ等もう一度考えてみる必要があると思います。

大学は自分の一生を賭けての仕事の基礎をかためる所でlife workの出発点であるべきです。

この様な心がまえで我々は常に科学する精神をもち、最新の頭脳とファイトと若きチームワークで、実績をもって（いわゆる名門、有名教授の門下、などととらわれず）世の人々に答えようではありませんか。実力こそ最大の武器です。そうすれば我々のリードで世の中がついてくるのです、ついてくるはずで、ついて来なければ世の中が狂っているのです。目先の利益にばかりとらわれ百年の計、千年の計を測れないアキメクラです。

だがここで考えなければならぬのは、この様にして今まで積みあげた人間の頭脳の結晶が又、これからもそれをより大きくなるはずのものが一瞬にして人類の全生命と一語に消えさる危険性が、今、目前にあるという事です。

我々は祖先から遺産を受け、それを又よりよきものとして子孫に伝えねばならない義務があるはずで、

一個人、一社会、一会社、一國一城の利益を追うばかりに全人類の全滅がもたらされつつあるのです。一自己だけ特別に扱おうとする為に――。

医学に対する化学の影響

小池克郎

実際近世の医者だの医学書を書く人々のなかには、正確な知識を基礎に持っている科学など、養生や医療の実地にはなりたないと主張する人がいます。そして彼等はこのように先入観のもとに、生命という本質を彼等独特の方法で説明する根拠をおいているのです。彼等はなにかの生理的病理的、あるいは治療上の諸現象の内的な関連が、自分達には分っていないのに、それらを観察した結果得たところの不十分きわまる考えを、自然法則なり、健康状況の、または疾病状態の法則なりとして、私達におしつけるのです。医療の実際に価値あるのは、自然を研究することではない、書物を勉強することだ。彼等はそう思いこんでいるのです。生命力及び生命の必然という言葉の中に、彼等はすばらしいものをでっちあげ、それによって自分達の分らない一切の現象を説明しようとかかります。なんとしても納得のゆかない、あいまいで、はっきりした概念では定義することの出来ないなものかをもって、自分達には不可能なものを説明しようとしします。たとえば彼等はこうゆうあらゆるやまいには、もろもろの生理的なちからに対抗する独特なちからがはたらいているのだ！しかも健康、疾病および治療上のもろもろの生理学的変化を正確に洞察することは、決して期待しないのであるから、養生法や治療術は、もっぱら類似臨床例にききめがあったとか、具合が悪かったとかいう知識に頼るべきだ、だから生理学をはじめ、もろもろの自然科学、化学や解剖学はまずもって、類似や相違を区別する特徴の数をふやすことにだけ、ちからいたすべきだ、ただこれ等の学問が体系だっているためにのみ、また疾病現象の類似とか相違、ないし医薬の作用が有効だとか、有害だとかに関する学問上の諸概念を確定する、ただこのことがある故にのみ、これら自然科学は顧慮にあたいする。いまにいたるまで彼等は、いっさいの知識の源泉である精密自然科学に無関心だったので、みずからを光明の予言者なりとし、彼等が自ら神とあがめる精霊に対してなされる反対は、いかにささいなものでも、不信仰のしるしとしか考えられないのです。

現在の自然科学がおかれているたちばを知らないものならば、あるいは今述べたような意見にまきこまれるおそれがないでもなく、また自然科学なかでも生理学や化学は、すでに幾世紀もまえから発達していたもので、いまや隆盛の頂点にあり、さらにもろもろの自然力は探究しつくされ、それらに関する諸法則も確立している。しかもこれらの学問によって、生命の諸過程を正確に把握しようとして払った努力は、すべて水泡にきしたるのである。とどのつまりは、この点に関する理解に到達するためには、やはり例

の方法だけが、唯一の正しい道なのだという考えにかたむくのは、無理もないと思います。もしほんとうにそうならば、理性にとんだ人でも、おそらくこのような理解に到達することは、望み得ないのではないかという考えにとられ、希望をうしななって、不可能という文句に錠前をかけて閉じこめておくことを忘れてしまうでしょう。

けれども治療術や養生法の領域の生理学的社会学的研究は、ようやく少年期にはいったばかりなのです。だが研究が緒についたと思うまもなく、これらの学問は、ともに正確な生理学的洞察による科学的な基礎をもち、生体内の諸変化は、自然法則にしたがっており、いつの日にかは、これらの領域にも、探究のメスをふるいうことを示すような発見が行われるのだという確信が、かためられるにいたりました。幾千年もまえには、解剖学については何も知らないが、医者としては腕ききの人物がいたことや、数世紀このかた、やまいはその本性、本体が知られなかったのにうまい具合に治療されてきたこと、さらに今日でも熱病とか炎症とかがなんであるかが分っていないことも、たしかにそのとうりですがだからといって、これらの現象を正確に理解することが不可能だという結論は、現在では全く根も葉もないのです。

医学を学問としてでなく、経験的な技術としてしか習得しなかった医者は、原理を知らず、この場合にはよくききあの場合にはたいしてききめがないというような、経験から得られた規則をこころえているにすぎません。だがもしわたしたちが、健康という状態をかなり確実に把握し、消化現象や同化作用、さらに排泄機構などについて、そうとうはっきりした見解をもつことができれば、人体の異常とか疾病状態は、一体どんな立場から判断されるでしょう。おそらく病の処置法はまったく面目を一新するだろう。だから、原因及び作用について、なんら当を得た見解もたず、自然現象の本質を実地に理解しようせず、生理学や化学について基礎的な素養を欠いていたからには、その他の点では理性に富んだ人々が、*ハーネマン学説はドイツにさかえ、その弟子たちがどの国にも存在するだろうようなばかげた考えにくみすることも、さして不思想ではありません。

悟性だけでは、国家すら迷信からまもることはできませんが、子供でもその情操や知識が発達するにつれて、お化けをおそれないようになることもあります。自然現象を、学問的精神をもって理解しようせず、現象ということばを解釈する方法を習得しなかった人々、いったいこのような人々から、彼等が化学や生理学の諸発見から、いくらかでも役にたつような結果をひきだし、それにもとづいてごくつまらない応用ならでできるかもと、それに期待をかけられるでしょうか。この連中や、これと思想的につながっている人々にとって、真理を実地に役だてるために、自分たちがどんなに苦勞努力していても、ついにそれが成功しな

かった場合、いやしくも真理たるものが、それほど単純であるなどという考えは、なんとしても、我慢ならないことです。生命力の本質を探究し、そのもろもろの作用を理解するためには、医者達は物理学や化学で大成功をおさめた方法に、厳密にしたがわなければなりません。

* (Samuel Friedrich Hahnemann 1755—1843) いわゆる類似療法、19世紀の前葉においては、この学説は、はなはだしく普及しドイツ、オーストリア、イタリア、ロシア、アメリカなど、又その亜流たる経験学派、同種療法などがおこった。(リービヒ「化学通信」参照)

リービヒが活躍したのは19世紀中紀から後期にかけてであるので、多少なりとも今の化学と医学の関係とは少し異っているにしても、依然医者達の態度が不可解に見える

のは何故であろうか、それは十二分に物理化学を治療や養生の中にとり入れて行わねばならぬと思っけていても、やはり今迄の臨床的経験的技術とかが物を言っているからである。よく古い医者には化学療法よりも今まで経験してきた自分の経験的知識の方がよりよいと思っけて行くことを時々きくが、こんなこっけいなことはないと思っける。化学療法はその安全性や正確さが確率によって求められている。そしてその確率は一人の医者が一生かかって習得する安全性や正確さの確率よりもはるかに大であるからである。このように医学は自然科学の一部門であり、そこから一歩も抜け出られない。自然現象の本質にとり組む我々薬学科学者は大いに奮起すべきである。そこには何らの劣等感、卑下感を伴ってはいけぬ。

我々の進むべき道

我妻光吉

我々人類はダーウィンの進化論のいう様に猿から発生したのか。キリスト教が説く様に神が創造し給うたのかは私には知る由もないが、兎に角、この地球上に26億有余の人間が喜怒哀楽の表情よろしく世界という一定の枠の中で生活していることは事実である。地球上に居る動物は何も我々人間に限ったものではない。海、山その他至る所に数えきれぬ生物が生存競争を続けている。弱いものは強いものに亡ぼされ強くて周囲の環境に適しているものだけがその子孫を残してゆく。ちょっと言い過ぎかも知れないが弱肉強食の世界を展開しつつ今日に至ってきている。

我々の目をちょっと、自然界に移す時、目に映る種々の美しい花も楽しく囀っている小鳥も常に自分の命を外敵から守ろうと注意し続けていることであろう。どんな生物でも外敵を持っている。勿論人間もその例外ではあるまい。今や宇宙に向って進みつつある科学を有する人類は全生物の王者として君臨していることは疑う余地はないが、だからと言って外敵をことごとく征服したとは言えぬであろう。古代人と同様な立場にあった獣類も人間の知恵の発達により現今ではそれ等を自由存ににあやつられるとしても少なくとも病気に關してはそれ迄に至っていないだろう。

病氣と言っても私には専門のことは勿論知っているはずがないからどんな病氣があるかわからないが、現在、医薬学界が総力をあげて戦っていることはガンではなからうか。もっともこれ以外に一度罹ると根治不可能な病氣は種々あるに違いない。

老人の話によると、昔は病氣にかかって医者門を叩くのは死亡診断書が書かれる十日位前のことが往々あったことだという。これには種々の原因を考へることが出来るだろうが、治療費の自己負担が容易でなかつた事が最大の理由ではなからうか。まだ英国のように「揺り籠から墓場迄」

にはなっていないようであるが、それでも幸いなことに戦後各種の社会保障制度が設けられて治療費の全額もしくは半額を政府及び市町村等で支払ってくれるようになっている現在では、以前よりは緩和されてきていると思っける。

某市においては国保を採用する前と後では罹病者数に二倍の開きが出ている。又重病患者が比較的少なくなっており、代つて軽病患者が非常に多くなつてきている事実を見てもうなずかれることと思っける。しかし高価な薬に対してはまだまだ、ちょっと手を出せない現状である。ガン等の一度罹れば回復の不可能な病氣に対して医者には容易にその病名を患者に知らせないと言ふ。不幸にして自分の病氣が実は恐ろしい病氣だと知つた時、自ら尊い生命を断つ場合を目前に見ている時、他人事とばかり言つていられないであろう。自分の体であるから自分だけ十二分に注意を払つて病氣に罹らないようにする事が明々白々であるが、それでも不可抗力の状態が生じる時がないとは断言出来ない。又我々は人間が病氣に対していように病原菌も種々の薬品に対して抵抗力を高めつつあることを忘れてはならない。

しかし何も両者のその上昇勾配が等しいと言ふのではないが、この世から病氣という文字が姿を消す時がやってくるかは甚だ疑問に思われる。我々はこれから先も始終病氣と戦わなければならないのである。世の医薬学に従事している人達は常に重大な責任を背負っているのである。こんな所に我々の進むべき道が考へられるのではなからうか。

医 薬 品
衛 生 材 料
度 量 衡

フ タ ミ 薬 局

連 坊 1 2 7
TEL (2) 5.763~5.764

嘲笑と文化

草野源次郎

先日ある新聞で「天をよめかした女相模」という記事を見たとき、蛙といたずらっ子の話を思い出した。子供達が池に数匹の蛙を見つけ出し石を投げつけた。その死様が面白いと更に石を投げ続けた。最後に残った蛙が、その断末魔の苦しみの中から「石を投げないで下さい。あなた方にとっては面白い遊びでしょうが、私達にとっては死活の大問題なのです」と叫べたという話である。農民にとっては水不足は全く死活の大問題なのである。迷信ではあろうが、女相模までするに至ったのである。それをその真剣さは理解できずに、それが迷信に左右されているからとか、女が相模をとるなんておかしな事だからといって笑の種にする態度には強い憤慨を抱かずにはいらなかった。一体にいわゆる進歩的な人達の武器は嘲笑なのである。その上この嘲笑という武器は、実に脅威ある存在なのである。誰もがこの武器を使う機会を虎視眈眈ねらっている。左手にフォークを右手にナイフを持つことを、こっそり制度化し、それを侵した者あらば即座に笑という武器を使用するのである。わざわざ方言を作り出し、その武器を使って教訓とするのである。いかにこの嘲笑という武器が私達にとって脅威ある存在であるかは、常日頃見うけるところである。ひどい方言は消えて行く。文化の流行は激しい新しいものは尊い。時代に遅れた者は変り者だ。笑いものにされない人は教養のある人だ。大学では二年がかりで、

その武器からの護身術を教えてくれる。被告の立場に追いやられないために、徒党を組み、笑いを強力にし、笑い倒してしまう。笑われたらいつかきつと笑ってやろうと決意する。理論、定義等の味方をつくり出し、いつも原告の立場にあらうと努めるのである。研究という名のもとに農家の寝室まで入り込み、それを公衆の前でもったいぶって嘲笑する。こんなに他人の生活を侮蔑してまでも、その目的をなしとげようとするのである。

太平洋戦争それ自身は大いに非難されるべきだ。しかしその戦争の善悪を考えず、ただ真剣に戦い、苦しい生活に耐え、一生懸命働いた人達の姿には頭があがらない。その戦争が悪事であった為、そういう人達が非難され嘲笑されているが、善悪を越えてその戦闘生活は賞賛されるべきだ。理性の考え出すことは、理論に走り、現実から離れ、技巧に走りやすい。頭脳では真剣な生活を理解することができない。物事を十分に理解することができないのである。それをなすことができるのは、人間全体なのである。身体でのみ理解できるのである。

私の小さい時の一番悲しい思い出は田水引きに関するものだ。今になっても水不足と聞くと背筋が寒くなる。嘲笑もかえりみず雨乞いをする姿に接するとき目頭があつくなる。迷信ではあろう。おかしなことではあろう。しかし、農民達にとっては雨乞をやるときは、死に直面している人のもがきと同様真剣なのだ。私達は笑う立場にいると反省することをしない。しかしけちな嘲笑で勝利を占めるよりも、嘲笑する自分を反省しようではないか。個性が尊重され、個人の生活が重んぜられる為にも、日本の文化を片寄せないためにも、皮相的なものにならない為にも、私達は反省してみようではないか。

現代の悲哀

小池克郎

いわゆる文化的生活というものをしている人々を見るにつけても、その貧弱さ、今にも周囲におしつぶされそうなその存在をまっ殺されそうな存在を、なげかないと思っている。そこには植物等にみられる、大自然のめぐみによってあたえられた、生命のいぶきの美というものが何ら見うけられない。人間は頭の動物ではないのだ（しかし現代はその頭も、はなはだあやしいものであるが。）その下にはその土台となる胴手足がひかえているのだ。それらをないがしろにしていると、およそ醜悪なものとしていくのだ。現に、この世には、これらの醜悪がはらんしている。人間の肉体が、自然の欲するようになるならば、この世界には、かけがえのない美が誕生すると思う。そして

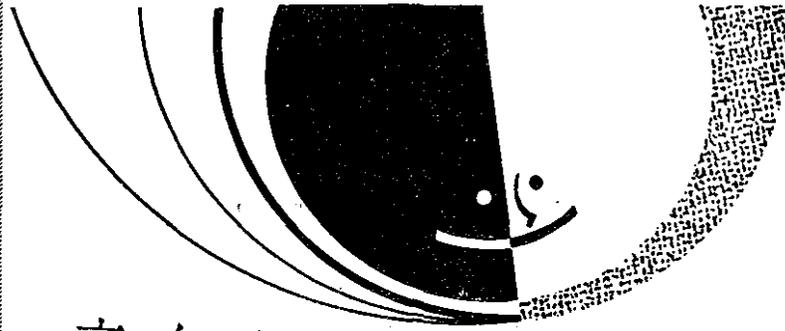
それらの美は、人間の心をゆたかにして、幸福をもたらすと思う。美は即ち万物の心である。心のきれいな人は、美しく、真に美しい人は、心も美しい。（残念ながら真に美しい人に出会ったことがない。）応々にして人々は、心の純粋さを保つことができずに、現代の、この頹廢に、妥協していると思わざるをえない。心が美しくないから、悪いことが悪いと感ぜず、美しくなろうともしない。全くおぼれきっているこの状態を残念に思ひ、又自分もたえず反省するものの、時々この心の弱さを暴露することがある。この醜悪なる美にまどわされてはいけない。世の中には仮面をつけた醜悪がまぢかまえている。又一方ではこれらの醜悪から全く目をそむけて一人いい顔をしようとしている人もあるが、これは卑怯であるし、憶病である。堂々と醜悪なるものにとびこんでいって、これと戦える人間であらねばならないが、残念ながら、このような人は少ないのでないか。こんなところが現代の人間の弱さではないのか。即ち自己を信じようとして信じきれないのだ。

一青年の考え

児玉 充 生

青年は常に希望がなければならぬ。青年の前途には光明が輝いていなければならぬ、未来を信じ未来に生きる、そこに青年の生命があるという。岸首相は「国事多難の折我が國の若い世代の青年諸君が祖國を愛し、自分の民族を愛し、祖國の使命民族の使命を十分に自覚して、世界人類のために青年諸君が立たなければならぬ」と言う。ところが日本の現実はいまにも冷たく、あまりにも厳しく、また酷でさえあります。入学難、就職難は激しく、青年の健全な精神の発達は見られるだろうか。昔は艱難汝を玉にすと言うような言葉で、はげまされたことがあったろうが今日はそう簡単に割切って言うわけには行かない。就職難などその他きびしい現実の生活のため、青年は徒らに社会の支配勢力におもねり、現実主義とか功利主義とか又は排他的陰険になり、卑屈になる。このように仕向ける社会に対して深い憤りを感じずにはいられません。マスコミは猫の目のように変って、我々青年を引きづり廻すのである。だから青年は信頼すべき対象を見失うのである。青年を美しい玉にするどころか事大主義にとらわれた自主独立の精

神を失った者にしたり、自分の成功のためには人間性を無視してもかまわないと考える者にしたり、あるいは又全く無気力な虚無主義者にしてしまうのである。こういう人間が絶頂に達したときの日本はどうなるのであろうか。想像してもぞっとする世の中であらう。全く日本の将来のため憂うべきことである。内には自己の生活のためあくせくし外には第三次世界大戦の危機に圧迫され、内外共全く不安定な生活のもとで岸首相の言うように祖國再建のため云々などは程遠いと思われるのではないか。一体、青年がこのように未来を信ずる事が出来なければ何を信じて生きていったらよいのか。僕は神を信じて生きることは出来ない。何故ならば神なんて結局人間の作った気休め的なものだと思う、だとすると神も信じて生きることは生甲斐のあるものとは思えない。神も信じられない、全く何にもかも信じられない世の中だから、真実のない社会だからでたために生きるしかないと言っていたら社会はますます悪くなるばかりでよくなりようはありません。それにしてもいまの時代の人間同士の不信の状態はあまりにひどすぎると言えるのではないのでしょうか。そうだとするとこの好ましくない風潮は戦争からの影響もあるでしょうし、今日の社会的、文化的環境にも原因があるように思われます。一方個人の間の不信とは別に政治、経済、一般社会生活の面での不信もこれまた非常に強いものがあるようです。まじめに生き



高血中濃度の長時間維持!

経済的な高級サルファ剤

イルガフェンは、腸管からの吸収が速かで、排泄が緩徐であるため、サルファ剤中最高の血中濃度を示し、体内有効濃度を長時間維持でき、少量で著効を奏します。

小児用にはあまくてのみよいイルガフェンシロップを新発売いたしました。

【包装】 (末) 25g, 100g, 500g, 1kg (錠) 10T, 20T
(注) 10% 5cc×5A, 5cc×50A, 20% 5cc×5A, 5cc×50A
(シロップ) 100cc, 500cc

イルガフェン

大阪市東区道修町 藤沢薬品

ても希望が持てないのはどういうわけでしょうか、何よりも政治が正しい政治をしていないと言うことにその原因があるのは言うまでもないと思います。政界の霞の奥は知らないけれども見渡す限り汚職です。又青少年の不良化が目立つから学校で道徳教育を行うべきであると文部省で決定し、現に実施されていますが、もしも学校で教えられた徳目が実際の社会において実行されていないと言うことでありと一層青少年を迷わし、何を信じていいのかわからなくなり、ある場合には逆に不良化をはげしくすることもあると思われまふ。経済の面でも、いまのような資本主義制度のもとではいろいろな不合理があります。まじめに働く人々よりも、ずるい人間や、小利口な者の方がかえってよい暮らしをしている場合もあり、沢山資本を持っている人々が莫大な金をもうけていることも間違いない事実です。又働きたい意欲のある人間に職が与えられないのは一体どういふことなのか、このように考えて行くと現在の経済機構を信頼できなくなるのは当然でしょう。その他社会的な面での不信の実例は一々例をあげる必要もないでしょう。一步外へ出たが最後どんな目に会うかわからないというのがいまの社会の実情です。こうした国内のあらゆる面での不信の高まりに対し国と国との間でもまるでキツネとタヌキのだましあいみたいなことが行なわれています。少し誇張して言えば現代の不信はいまや地球全体をおしつぶんでいるとさえ言えるような気がするのであります。これでいいものであろうか。絶対に良くないのはわかりきっています。若い世代の我々には耐えられない気がするのであります。それなら我々は何を信じてどのように生きるか社会を少しでも良くするためにどのような生活態度を取ればいいのか、私なりの考えとしては理窟に合った生き方をすることだと思つて居ます。働いても働いても貧乏な生活の不当を叫びながら一方では金持を尊敬します。学歴がないための差別待遇に悩みながら自分はやはり学歴のあるなしで人を差別します。これは知識と行動とが分れ分れになっているということで、知識の求め方や吸収の仕方に誤りがあるためと言わなければなりません。知識を頭で求めるだけで心で求めているからです。それでは何を信じて生きるのか、結局自分で自分が信じられるように生きることが、根本であると思つて居ます。正しいものと不正なもの、尊ぶべきものといやしむべきもの、愛すべきものと憎むべきものをはっきり區別し憎

◇ ◇ 庄 司 堅次郎

みごとな緑の檜の下で、あすはあの様な立派な大木にならうなうらうとして上ばかり見ているが結局ちつぽけな木にしかなれない。あの「あすなろう」の話しを君は知つているかい、僕はそんな翌檜（あすなろう）が大好きなんだ。

◇ ◇ 岡 野 丘

美しい自然を眺める時、何か泣き出したいような、叫び出したいような変な衝動におそわれる。

こんな時、詩人は詩を作り、画家は絵を置き、作曲家は音楽を作り出すのだらう。何の才能もないものは、何かを表現しようと、ぎこちなく体を動かすだけである。

◇ 劣等生のたわごと ◇ 杉 山 淑 美

誰にも出来ない事をやれる人間は、偉いと思いませんか？実は、物理、化学、代数が加速度110をもつて落下運動の真最中なんです。

◇ 鈍 崎 ◇ 山 内 恭 子

何でもしてみたい。失敗に終つたって何物かを得ればそれで良い。猛り狂う波と岩を見つめていると不可能な事があり得ない気がしてくる。

むべきものを愛したり、いやしむべきものを尊んだりするようなそういう矛盾がなくなれば社会に真実が力を持ち、まじめに生きれば希望がもてるという世の中になるのではないかと思います。信じられるものをさがすより、信じられる社会をつくるように生きることではないでしょうか。その日その日を充実して生きるためには人生に対する信頼がなければなりません。僕の現在までの短い人生経験のうちで人生と言うものはそれを信頼する人間には常に豊かに報いてくれるもので、早くから人生に見切りをつけた人間には人生は常に冷淡であるものだとしみじみ思つて来ました。人生に対して信頼を持つことは同時に人間に対して信頼を持つことです。人間は実に多くの欠点を持ち又実に多くの過失を犯します。しかし人類というものは徐々に進歩しつつある動物で、世界をよりよくするために努力しつつあることを私は確信するのであります。 終り

医薬品卸小売

金 英 堂 薬 局

店主 大 内 市 郎

仙台市国分町角
電話 (2) 四九五八番

和洋書籍・雑誌・文具・洋品

丸 M 善

仙台支店 電話代表
国分町 ③0107

思いつくままに

小 鴨 晃

僕は高校の三年になっても自分がはたして理科に向くものか、文科に向くものかもはっきりせず、確信がもてなかった。しかし僕は高校で一年から化学部にはいっていた。幸いにこの部に集まったもの達には、ファイトがあり、一年にはいって最初から水質分析の方法を教えられ、試薬を上級生に命ぜられるままに天びんではかり、水質成分の定量の練習をし、毎日実験室での仕事が一段落すると、体育館に行っつけられるまでバスケットボールをして、暗くなる頃学校から同じ方向に家がある人達がいっしょになって家に帰ったものだった。したがって最初のうちは家の人からもっと早く帰ってくるようにいわれ、自分もその気になったものだったけれども、どうしても皆んなから離れられず、しまいには家の人も何んとも言わなくなってしまった。部では例年夏休みまで団体研究を行った。そういっても毎年川や湖の水質成分の定量分析を各々の成分別にグループを作って行った。夏休みが終ると個人がそれぞれテーマを見つけ個人研究にはいる。僕はいつも中途はんばで満足なことは出来なかったが、例年秋に行われる文化祭には部員一同しんげんに取り組んだ。なにしろ他校からその道

の達人がくるかも知れないからうっかりしたことは言われないし、他の部のように借りもので間に合すこともできない。一週間位前になると毎日八時、九時頃まで実験室に残っていた。そして自分の選んだテーマについて互に質問し合って疑問の点はうまく答えられるように調べた。また他校に文化祭があるときには、その化学部でどんなことをしているかをさぐり、こちらで調べていって逆に質問をしに行くこともあった。このようにして三年間、後をふり返ってみるとなんにもたいしてまとまった成果は少しもあげられなかったが、高校の授業だけでは得られない何かを獲得でき、それが自然に僕をして理科、それも化学方面の方へ向わせたものと思う。

さて薬学科に入ったとたん大きな事故がもちあがり、僕達は大きな試練に立向った。それはまさに新設学科の苦しみといえよう。幸いに上級生の力でこの問題は無事解決してこの雑誌をかざるようになったのはうれしいことである。しかし万事はこれからである。この薬学科が将来どのように発展するかは一重に僕達の力によるのである。新設学科は特に普通の学科と比べて大きなハンディキャップがある。僕達は積極性をもってこれをうずめなくてはならない。かくいう僕自身も積極性が足りないのをひどく痛感している。なんとかこの大学生活中に積極性をつけたい。これは僕の大きな願いである。あれこれといやに「なまじき」なことを書いたが……。

クラスの事

柳 瀬 良 文

雨の降る昭和33年4月14日、俺達の入る予定の校舎が焼け、続いて15日には薬学科専任教授であられた、一色教授が不幸にも来仙の途、車中にて逝去されたのであった。そして俺達が入るべき校舎も、教えを乞うべき師と頼む人も一時に失った。しかし、これらの難事も専任の岡崎教授が決り、校舎も医学部内に決って一応解決された。そして校舎に関しては今年新しく入学された一年の方々と、二年生が協力して、富沢拒否の運動をした結果であるのはいう迄もない。そして、現状に於いては最良と思われる線まで我々の主張が通ったのである。俺も最初は富沢でも構わんと思っていたが、今後二年半の長きにわたって、バスにゆられて不便な富沢まで通学しなければならないことを仮定すると、ああよかったと思わざるを得ない。

ここに武藤、黒谷両教授始め、我々の意見を卒直に認めて下さった岡崎教授、その他我々の事に関心と理解を持って下さった各学部の教授や、多くの人々に衷心より感謝の念を表明せずにはいられない。ところで「雨降って地固まる」という諺があるが、この度の出来事は我々二年生にとってこの感が深い。それは、今迄の薬学科はクラス全員バ

ラバラで、一致して一つの方向に進むという様なことはなかったが—その原因は種々有るんだらうが、ここに並べたてる必要もなからう。—ところがそのバラバラなものが、とにかくまとまって協力体制を作るという様なことになったのは、実際校舎の焼けたお蔭だ。そして今迄クラスの事なんかはどうでもよくて、「僕は知らんよ」的な人が多かったと思われたが今度位クラスの話し合いで熱心な討論が行われ、長時間の議論にも人数のへらなかつたのは珍らしい。もっとも、なかなか結論の出なかつたのも確かだが。話は別になるかも知れないが、クラスの委員長決定や、雑誌の編集長に誰がなるか等という問題でも随分もめたが、これは結局、所謂くすぶっていたものが表面に出たという感じで、それがクラス全員の前で議論され、意見の出つくした所で一応の結着を見たのは、慶すべきだと思う。そして変な例えだが、鼻の穴の中にできたニキビよりは額に吹き出したニキビの方が処理し易いのだ。従って今後は何か問題となる様な事があつたら、皆の前で(クラスの話し合い等)議論されていけば、クラスのやり方にかげながら不満をもつ等という事はなくなると思う。それで、折角校舎の焼けたのを機会に皆んなが話し合う様になったのだから、今後とも講議なぞはたまにネグっても、稀にしかないクラスの話し合いには成丈参加して意見を出す様にすれば、よりよいクラスとなるのは確かだ。

光太郎の詩を読んで

及川節夫

僕は高村光太郎の詩をよみ、彼の力強い積極的な物の考え方にひきつけられ、彼の詩を好むようになった。ここで「道程」の中の三篇を撰び、それについての僕の考えを述べよう。

このごろ僕は“我々の人としての為すべき事は何か”と自分でも考え又友とも語り合った。しかしその確固たる答は得られず、今でも疑問である。ところが光太郎も又“寂寥”の中でそれを求めている。それは

何処にか走らざるべからず
 走るべき処なし
 何事か為さざるべからず
 為すべき事なし

.....
 ああ走るべき道を教へよ
 為すべき事を知らしめよ

と云う中に現われ、為すべき事を知るための積極的、能動的な欲求として現われている。僕は為すべき事が何であるかははっきりとは知らないが彼のような能動的態度を持っ

てそれを求めるならば、必らず何かを得る事が出来るだろう。

光太郎がこのような昏迷と焦躁との状態を経て得た生活感情は、“冬の詩”“牛”“群衆に”“秋の祈”等に現われている。その中僕は“冬の詩”と“牛”の二篇が好きです。光太郎はこの二篇の中ですばらしい生き方をえがいています。すなわち“冬の詩”に於いてはこの厳しい現実の生活を凄烈な孤独な、それでいて後に春をひかえ未来を包み、未来をはぐくむ冬にたとえ、その冬に負けない力強い生活をおくり、その冬によって鍛えられ、その冬の次に来る未来を信じて努力することをえがき、“牛”に於いては何物にも屈従しない意志と力強さと何物にも左右されないどっしりと腰を落ちつかせた思想を持つ理想の像を、大きい図体でのろのろと、それでいて利口でやさしい眼を持ち力強く行動する牛にたとえている。

たしかに彼の云う通り平和のみが愛の姿ではないのだ。厳しい冬の様な生活の中でも我々は胸を張り大地を踏みつけて歩かねばならないのだ。そして未来を信じ未来を目ざして、のろのろでもよい、力強く歩かねばならないのだ。

冬だ 冬だ 何処もかも冬だ
 見渡すかぎり冬だ
 その中を僕は行く
 たった一人で——

神経痛・リウマチに 新しい治療法

(OSN10)

神経痛・リウマチ新治療剤

新
 発
 売

オサドリン

オサドリンは西独クノール社研究所で発見されたピラゾロン誘導体 1,4-ジフェニル-3,5-ジオキソピラゾリジンとアミノピリンを主成分とした神経痛・リウマチ新治療剤である。
特徴
 新化合物1,4-ジフェニル-3,5-ジオキソピラゾリジンは毒性低く、その抗リウマチ作用はアミノピリンよりすぐれている。
 この新化合物がアミノピリンと協同して相乗的な効果を発揮するためオサドリンの鎮痛、解熱作用は極めて強力である。
 副作用も上記配合の結果軽減され全身の忍容性はもとより局所の忍容性も甚だ良好である

単位当薬価基準



錠剤 10錠・20錠・100錠・500錠
 注射液 (副) (300・500) 5管・50管

大日本製薬株式会社

剤型	A 地	B 地
錠剤	22.35円	23.00円
注射(50cc)	110.20円	113.40円

寸 懐

永 谷 富 子

「知らぬ振り」は、自分がする事も他人にされる事も、ある時には私たちに便宜を与え、ある時には、憤りの念を抱かせる。

朝、いつもの汽車に乗って七分もすると次の駅から一人の女子学生が自分と同じ車輛に入って来た。私は彼女との以前の関係から、知らぬ振りを装っているのもまづいと思ひ、なるべく微笑を浮かべながら、一しかもその微笑が相手を快く迎え得る心からのものではない事を自分で意識し乍ら— その視線をとらえようとした。がとうとう彼女の方で、私の存在を認めたにもかかわらず、知らぬ振りをして二つ三つ向うのボックスに姿を隠してしまった。私はそのつくり笑いをどうして元に戻そうかと周囲の目を気遣い顔を赤らめた。言い様のない不快な感じ、怒りさえも感じて、私は手にしていた本を閉じて窓外に目を遣った。数年前の自分と彼女との関係を思い出してみる。中学時代から私は、秀才にして明朗活潑な彼女に憧れ、自分もしかありたいと思っていた。同じ高校に進学してからも一年上の彼女は、時に内攻的で沈み勝ちな私のよき相談相手でもあった。

それが彼女が受験勉強で忙しくなり、続いて自分も、仙台に出て一年する中に、お互いに朝の挨拶さえ自然に出来ない様な状態には入ってしまったのだ。何故だろうかと考えてみる。最初、自分は彼女の感情を害する様な事は何もしていないのだから、お互をこんなに引き離してしまった原因は彼女側にあると考えた。しかし彼女の立場に立って

◇ 寝 言 ◇ 小笠原 国 郎

おれは勉強が大嫌いだ。高校卒だけで、健康で文化的な最低限度の生活を営むことが十分に保障されているような結構な世の中であつたら、何も無理して大学なんかに入らなかつたらう。でも、更に深く真理を探究すべきところに入った以上、何物かを体得しなければいけない筈だ。おれは、とても、勉強の方では見込みがなさそうだから、学問以外のもの、スポーツとか、出来るだけやろう。そうすれば、平常の勉強によって体得され得るべき何物かの万分の一位は補えるだらう。

◇ うがった定義 ◇ 佐 藤 進

古来幾多の人々が直面して未だにその実体を味わい尽せない、しかも人間の知恵では、はかり知れぬ深さを持った人生に見切りをつけて人生の敗残者となるのが自殺であると思う。

みる。やはり自分と同じ理由が成立するではないか。結局この様な事は、お互いの行動とかいう具体的なものが原因であるとしては解決出来ないことがわかった。それは「時」という第四の次元なのである。人間はその時々を感情を、そのままいつまでも保持出来るものではない。もしそれが可能であるとしたら。おそらく人間は悲しみ続けねばならないに違いない。過去に於いて、どんなに憧れ慕った人でも意気投合した友人でも、互に異った生活環境の中で、ある程度の時限を送ると、もう互いの間には、どうする事もできない厚い壁の出来ている事が屢々である。誰も生きて行くためには、その場その場の環境に順応して行かねばならないから、その環境外にあるものは次第に遠い存在になってしまうのは無理からぬ事であろう。しかしある種の愛情に於いてある人々は変らぬ情を持ち続ける事が出来る。とすれば、人間同志の感情の移動を唯「時」のみのせいにしたのは誤りだったように思われる。自分の側、あるいは彼女の側だけに非を見出そうとするのも当らない。双方に非があり、双方で時の作用に負けてしまったのだ。今から考えれば歯がゆむ程のものをもって彼女を見ていたとしても、それは、所謂、時の試練に耐え得る程の強いものでもなく、唯一時的な感傷に過ぎなかつたらう。

こんな事で時々不愉快になるでは偏屈な自分だけなのだらうと思っていたが、そうではない事を聞き、幾分、気を安めて、なるべく彼女とは会わない様にと思っている。しかしそれで全て解決というわけではない。キリストは聖書に説いているではないか。全ての人に愛をもて謙虚な心で対せよ。と自分はクリスチャンでもなく聖書など理解出来るものでもないが、どんな人でもこだわりなく大らかな気持ちで接し得る様な心は必要であると思ひ、自分が今彼女に対してとっている態度に、罪を感じる。一方こんな事で云々する自分はあまりにも物事に拘泥し過ぎるのではないかと思ひ、少々の事を物ともせぬ大きな氣概を養いたたいとも考えている。

制 服

御通学は背広も快適

(学生様割引)

東北大学指定

株式会社 大丸 服装店

大学本部前 TFL③3665

孤独地獄

山内 郁

芥川竜之介の孤独地獄という作品を読んだことがある。たしか中学三年の時だったと思う。その中にこんなことが書かれてあった。

「……孤独地獄だけは、山間曠野樹木空中、どこへでも忽然として現れる。云はば目前の境界が、すぐそのまま、地獄の苦艱を現前するのである。自分は二三年前から、この地獄へおちた。一切のことが少しも永続した興味を与えない。だからいつでも一つの境界から一つの境界を追って生きている。勿論それでも地獄は逃れられない。そうかといって境界を変えずにいればなお、苦しい思いをする。…」

かって私もこれに似た様な所へおちたことがある。勿論これ程深刻なものではなく、ただ孤独だという感がせまってくるというだけのものであった。しかし孤独地獄という題名から、自分の孤独感と共通なものに思えた。

それはふいにやって来た。まわりのさわがしさに、さびしさを忘れていた時、ふっと思いとどまってみると、まわりに誰も居ないのである。形のもの人間は多くいても、

私を入れてくれる心がないのである。そんな時は悪い事をしうちあげずにいる様な気持ちになってくる。まわりの人が皆、近より難く思えて、一人ぼっちという思いがいっぱいこみあげてくる。自分の悪い所が一つ一つ思い出され、自分なんかは何も出来ないんだと卑下したくなる。孤独だと思いながらも誰からかはなれていたいと思うのである。

孤独感を感じたことがないと言える人は幸だろうか不幸だろうか。一見私にはそういう人がうらやましく思える。しかし若い人々はもっと孤独感にひたってみる必要があるとはよく言われることである。現在私をも含めて真に孤独に徹することの出来る人はどれ程あろうか。先入の話を聞いてみると、昔の人々はみな、一人人間の存在に悩み人生の苦悩と闘ったことが普通の様である。私はそれを聞くと、その人々のしっかりした考え方行動が目に見えてくるのである。

たしかに孤独感におそわれた時はやりきれない気持ちになる。が、孤独や苦悩に直面し、それを克服してこそゆるぎのない人間性が築きあげられるのではなからうか。孤独とは決して常のものではなく、むしろ真実の人生を生きぬく上に不可欠のものであると思える。そこからみると、孤独感を味わったことのないという人は、むしろ不幸であると言っても良いのではなからうか。

◇ 川内 校舎 ◇ 古 沢 衣世子

米軍キャンプの跡だつて？

苔の生えた老松には、ペンキが塗ってあったそうだ。

化学実験室は馬小屋だったんですって。

(キリストのようなアインシュタインが生まれるのさ)

◇ 希 望 ◇ 松 坂 美沙子

粗いながらも一応は節に掛けられ残った豆莢ではあるが落着くべき耕地を見出すことは出来なかった。しかし、彼等の中に宿っている生命は暖かい光線を求め、てやがて輝かしい芽を伸ばすことであろう。

笑 い

早 坂 弘 子

私は“笑い”というものにもいろいろ種類があると思う。「〇〇さんプールに飛び込んだ時どうやって飛び込んだのか知らないけどプールの底にひじをぶっつけたんだって。頭とか手の先をぶつけるんなら話わかるけどね」ア……。 「〇〇さんね、仏語の辞書お金なくてまだ買えない時、あてられたんだって。単語全然わからないでしょ。だから隣の人の言う通り“これはものさしです”って訳したらその単語ものさしじゃなくて万年筆だったんだって」ア……。 等と皆なで笑う場合の笑い。トランプがおもしろいように勝ったり自分でいろいろ素敵なことを空想して一人でほくそ笑む時の笑い。わきの下や足の裏などをくすぐられた場合思わず叫んで笑い出す場合の笑い。シャワー等を浴びたりした時冷たい水のせいかわからないが、皆一様にウワーッと叫ぶとかハァとか叫んで笑う時の笑い。街頭録音などでよく女の人は何も言わないで笑っている、そういう時

の笑い。道路でつまづいてころんだり、冬雪が降った時などすべってころんだ場合、誰も見てなくても一人でおかしくなる時の笑い。バスの中などで大ゆれにゆれて思わずフラフラと他人のところにぶつかって行ったり、ころびそうになったりした時のテレかくしの笑い。知っている人に会った時おかしくもないのにニヤニヤ笑ったり、口をただ横に開いたり、女優なんか写真をとる時ににっと笑う笑い。試験で何を書いたらよいかあまりにもわからない時に出てくる自分をあざけるというのかなんともいえないさびしい笑い。あまり親しくない人と時には親しくしている人でも2人きりになった時話題がなく何か話そうとお互いにあまり興味のないことを話しておかしくもないのに相槌を打って笑うお愛想笑い。毒きのこなどを食べてただ顔の筋肉がゆるんで笑ってるようになる場合etc……。

一体“笑う”というこへはどういう感情からくるのだろう。なんだかわけがわからなくなってきた。“人間は生物の中で唯一の笑うものである”という時の笑うはどんな意味の“笑う”なんだらう。現在自分はおかしくない時でも笑う（顔の筋肉をゆるめているだけかもしれないが）自分では本当におかしい時だけ笑いたいのに。



盛岡よいとこ

岩 動 淑 子

「おでんせ」(いらっしゃいませ)
「あやや、やんたこと」(あらいやだわ)
盛岡弁はやわらかい方言だといわれる。

フランス語に似ているともいわれる。フランス語のように、鼻を抜ける様な発音が多い。例えば自動車を「ずんどうしゃ」、先生を「しえんしえ」と発音の仕方は標準語とだいぶ違っている。又「あのね」とか云うように、相手に話しかける時使う「ね」は「なはあん」と真にデリケートな他の地方の人には出来ない様な発音のし方をする。もちろん例はその他にも沢山ある。

「まんつはおもさげがんせ」(どうもすみません)
申訳ございませんの事だから、考えれば解るものの、初めて聞いた者には解せない。
ズウズウ弁でも仙台の言葉はドイツ語系統だ。hereinという言葉と、仙台弁とを比べてもらいたい、もはもはほがほがした盛岡弁は、フランス語系統である。

方言論はこの程度にして、一体盛岡の良さは山と川にある。市街に川が三本流れて居り、それが駅に近い所で北上川に合しているのも、魅力の一つだが、何より岩手山である。富士山よりも急峻で、盛岡から見ると左側は奥羽山脈に続き裾を引く右側は実に美しい。啄木は、ふるさとの山に向いて言ふことなしと歌った。全くその通りである。それほど岩手県人にとって岩手山はなつかしく、かえ難いものなのだ。左と右とが、話だけではアンバランスの様に聞えても、左側のぎざぎざと、右の裾を長くひいた美しさが、岩手山をより安定にさせ、どっしりとさせ、男性的にしている。偉そうなことを云っても、私はまだ一度もこの山に登ったことがない。近いうちに是非登りたいものだと考える。

方言や自然環境からも想像される様に盛岡の街にはのんびりした空気がある。この頃では相当やかましい街になってきた。それでも、いくらポロシャツを着てマンボズボンをはいた青年が五人六人かたまて歩こうが、街頭放送がガアガアやろうが、やっぱり盛岡は盛岡、不來方(こずかた)城址と岩山という三百余りの小さな山のある、岩手山の見える街なのだ。すこし暮したことのある人なら認めないではられない盛岡の良さである。

亀 の 甲

百 瀬 和 享

先日、幼い頃治療した歯がちょっとしたショックから突然痛みだした。授業が終るや歯医者にかけこんだ。ところが偶然その医者が高校の先輩であったのには驚いた。そんな訳でつつい話が進み、話題は薬に移ってきた。

「おれは亀の甲はきらいだなな。」
「なぜですか。」
「歩き方が遅いからなあ。」

亀の甲とはいうまでもなくベンゼン核のことであるが、あの六角形の亀の甲をベンゼン核にたとえたのには感心し

た。実はその時までこの比喻を知らなかったからである。実に亀は歩みが遅い、歌にもある、が我々も必ずやその亀の甲にお目にかかるであろう。この動きののろいものを観察し、或いはある目的地まで誘導せねばならぬこともあるだろう。又、途中で餌を食べるかもしれない。中には炭素水素酸や硫黄もあるだろう。時には眠ることだってある。だが我々はこれを最後まで観察し、誘導し、且つ人類に貢献すべきものにせねばならない。そのためにはこの動きの遅いものを努力と忍耐をもって最後まで見きわめねばならないのである。これが我々が果たすべき義務である。しかし、この歯科医には忍耐力がなかったと見える。そのため亀の甲きらいになったかもしれない。

話はずんで、もはや日も暮れようとしていた。少々あわてて失礼したが相手も待ち合い室に客を二人ほど待たせたままであった。

理化学器械・ガラス器具及計量器
実験用諸材料・各種器械修理
北海計量器株式会社代理店

大 島 商 会

仙台営業所 仙台市荒町144
電話 (2) 2732

本

東 一 8

仙 台 金 港 堂

TEL 27012

アルバイトを求めて

植松利男

×月×日

今日で正しい会にも四四足を運ばせた。ここは我々学生の職安だ。九段の外濠の内にあり、元近衛師団が使用していたもので、現在大半を警察学校が占め、残りを援後会、学生会館、及び自衛隊が使用している。

昔の建物とてきたならしい不快な感じである。職種発表は1時から30分。その頃には学生が群を作る。毎日およそ1000人近い人出だ。それに較べると求人先など雀の涙ほどだ、我々の悩みの種だ。皆が長期間もの、楽で然も賃金の高いやつと目を皿の様にして掲示板を見つめている。暑いのに押し合いへし合い深刻だ。何も先着順でもないのに我先にと人の足を踏んで割込んでいく。後でゆっくり見ればよいのに窓によじ登ってまで早く見ようとする。むしろ一番最後に入れば皆がどんな処にカードを入れたかその模様がわかって有利なのに、おかしな真理である。

今年は、金融引締の影響を受け、求人が前年に較べかなりの減となった。それで今日までで8日以上通ったものも大分いるそうだ。そしてその人達はみな長期をねらっているのだ。とうてい今日も僕は付きそうもないと早く観念する。4時までの選考時まで木陰の下にねそべって物思いにふけるが、又は少々まどろむ。外濠に浮べたボートをぼんやりと見つめる。単調だ、暑く体もだるく動くのもいやだ。待遠しい。常時も選考に漏れると二度と来まいと思うのだが翌朝には自然足が向くから不思議なものだ。今年で2年目、大分バイト仲間も出来た。会うと互に「今日何番に入れた?」と云い会う。「3番」「15番」「なら5番は一日で賃金300円だな、長期はだめだよ」だめとはわかっていても一応印をもらいに毎日通うのだ。印は何回通ったかのしるしである。回数が多くなればいずれ長期ものに付け

ると期待しているのだ。以上が僕等の合言葉だ。

今日はニュース映画のカメラマンが実情を映しにやって来た。深刻に掲示板を見つめる顔を無造作に映して行く。人の気も知らないでとどなり散したくなる。この深刻さ、それにただ深刻ぶっているのであらうか、いや考えて見ると愉快な事だ。愉快なんて云えた柄でないが、とにかく、彼等は今永久の職を別に捜しているわけでないのであり、ほんの一時的の職なのだ。然もこれらの学生は生活に困っているかと云えば一部一僕も入るが一を除いては否なのである。稼いだ金を右から左にである。いや娯楽費を稼ぐために働くのだと云っても過言ではないのである。

親にせがめばくれるであらうに彼等はそれをしない。自分等は半社会人でも一応社会人であるから親の援助などいらぬといった見栄、自尊心の為であらうか。或は本当に親の気持を考えての事なのか。とにかく彼等は稼いだ金をきれいに使い果してしまうそうである。実際若い内から金を貯める考えを起すなどくだらぬと思う。働くだけ働いてそれを右から左に流そうといいではないか、それで結構楽しい思いがしたのであれば……。

4時になると拡声機から常もの声が流れる。「大変お待たせ致しました。ただ今から選考発表に移ります。その前にお呼び出しを申し上げます。」この文句は毎日繰返される。そして毎回すぐ発表したことはなく、最初はじれったく思ったものだが、このマイクの主は援後会の人気者だ。何かすると「諸君は最高学府に行っているのになんということですか、ええ！」なんて憎まれ口をたたく。だが気はいい人だ。誰も真には憎めない。

3時間近くも待たされて、このマイクの声をきくと、ああ今日もやっと終わったのだとほっとする。後に残るもの。さっさと帰っていくもの。

明日又会おう常時の木陰で、漏れた時は何だか入試に落ちたようにさびしい、落ちるということは何についてもいやなことだ。明日はいつそ一日だけのやつをねらおうか。

営業種目 〔 沔紙・試験紙・理化学器械
| 試薬・計量器・気象器械

(在庫豊富低廉)

カタログ進呈

皆様の御愛顧により益々発展致して居ります

仙台市北二番丁125 TEL (3)3859

東洋沔紙KK 仙台出張所

◇ 薬 ◇ 山内 郁

帰省する汽車の中で、見も知らない人が話してくれた事が私の興味をそそった。その昔、薬というものを使いはじめた人は誰だろうか。またそれは、猫や犬が虫のわいた時に草を食べる様に本紙から生じたものか薬というものの効用を知って見つけ出そうとしたものなのか。おそらく、どんな博識者でも知らない事であろう。

雑 感

水 柿 道 直

When as a child, I laughed and wept, time crept.
When as a youth, I dreamed and talked, time walked.
When I became a full-grown man, time ran,
and later, as I older grew, time blew.

あとは忘れてしまった。作者の名も記憶にない。昨年英会話の時間に習った詩だ、別にうまいと思った訳でもないが、年をとるにつれて、月日の進行に対する感じ方が段々変わっていくのをただ面白いと思った。同時に多少共鳴を覚えた。とはいっても、僕は未だ第二行目の前半あたりにいることになるから、三行目以下の部分についてはどうなるのか厳密には分らない。Time flies like an arrow という金言はいつ頃できたのだろうか。これが西洋人にも共通な感慨なのか、個人的なものなのかよく分らない。しかし、「光陰矢の如し」という感慨を懐くようになるのは、極く自然な気がする。

ところで、青年時代には、時は歩いて進むそうだが、実

際、小学生の頃には時の経過などに気をつけたことなんかなかったのに、ここ数年來時折感じるようになった。行進曲の速さか、或はデモ行進の速さでもいえるのだろうか。とにかく、のらりくらりしているのではないことは事実だ。時には一ぼんやりしているときなどには一神風並のスピードではないかと思うことがある。が、時をつぶそうとするときには皮肉なもので、例えば長い講義にあきたときなど、止っているのではないかと、そっと時計のねじに手をのばすこともある。

これでよいだろうか、人は若い時には、時を惜しむことを知らず、知ったとしても、甚だしく惜しむには至らないという。大学に入ってもう一年半になろうとしている事実を考えれば、大いに時を惜しむ必要があるようだ。が、時を惜しんで勉強をする気には中々なれない。スポーツでも何でも熱中して過ごす時間はとてもすばらしい。それにひきかえ、身が入らないで過ごす時間はまことに勿体ない。机に向って、本をみるわけでもなく、唯ポカンとして同じ箇所を何度も往き来しているのに気がついて舌打ちすることがよくある。そしてバカらしくなる。

時は有意義に使いたいものである。

◇ 大 学 ◇ 大 津 耀 子

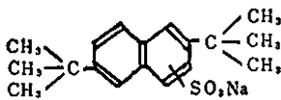
第一印象：富沢山の上の桜と芝生。ガタガタバスに揺られての通学でも富沢校舎と別れるのは一寸悲しい
第二印象：酒、煙草、麻雀と何でもなさる新入生(勿論一部)はじめは一寸驚いたが今は慣れました。

◇ 悲しいこと ◇ 早 坂 弘 子

自分が必ずすると約束したのに、他人にその言葉を信じてもらえず、どうせ約束を破るだろうと無視されること、つまり誠意を裏切られることは悲しいことだと思った。

非麻薬 最も新しい鎮咳剤!

★新発売★



Sodium 2,6-ditertiarybutyl-naphthalene monosulfonate

(略称BNSS)

コイテン
Keuten

1. 動物による鎮咳効力はコデインの約1.5倍
2. 毒性はコデインの1/2以下
3. 副作用は全く認められない
4. 祛痰作用も有している。(白色の十倍散 100g 500g)

(文献贈呈)



鳥居薬品株式会社 東京都中央区日本橋本町3の3

失 恋

—後藤正義

兄上様、だしぬけにこのような手紙を差し上げさぞびっくりされることと思います。ぼくは現在この問題で勉強しようと思って机に向って本の活字が2つに分れて絶望と見えるだけです。

そもそも僕が彼女に特別な感情を抱くようになったのは、6月初旬N響が来仙して公会堂で演奏した日からのことです。山出しの僕は今までに交響楽団の演奏など見たこともなかったので、丁度よい機会と思って1人で出かけて行きました。僕が席に座ってしばらくすると、隣の席に淡い灰色の無地に細い格子のあるツーピースを着た、ほっそりとした目の大きな人が坐りました。それが彼女だったのです。演奏までにはまだ大分時間がありました。

何かのキッカケで彼女と話すようになりました。兄上も知っての通りぼくはN響に関する知識など全くありません。彼女はよく知っているらしくシンフォニーは第4楽章から構成されていること、ヨハン・シュトラウスという名の音楽家は2人いて、ワルツ王として有名なのは子供の方であり、父はワルツの父として有名であることなどを教えてくれました。その日演奏したのはベートヴェンの第9でした。ぼくは初めて聞きましたので指揮者のタクトばかり見ていたようです。別れるときに、暇な時遊びに来るようにと住所を教えてくださいました。

家に尋ねない方がよいとは思いましたが、尋ねなければ彼女は永久に僕から去ってしまうような気がし、彼女の大きく開いた瞳、鼻筋のおおった顔が目の前をちらついてはなれませんでしたので、ついに6月下旬のある日曜日、彼

女の家を尋ねました。家は閑静な住宅街にあって、古めかしい門におおいかぶさった松のある木立にかこまれた割と大きな家でした。この門を見て私は彼女の父は7・5調で語をするのではないかと思いました。しばらく門の前を行ったり来たりしていると「エリーゼのために」のピアノの音が樹間を通して伝わって聞こえて来ました。僕はこの曲に誘われるように飛石づたいに玄関に行って案内を乞いました。ピアノがびたりとやんで出て来たのは彼女でした。ピアノのある応接室に通されてコーヒーを出してもてなしてくれました。母親と三人で仙台の史蹟の事、僕の将来、観光地のことを話しました。ここで僕は彼女がK学園の4年生であることを知りました。彼女が僕に「乙女の行り」を弾いてきかせてくれましたが、その時彼女の手がふるえているように感じたのは、あるいはぼくの錯覚かも知れません。

次の日曜日彼女と一緒に大鷹森に行きました。青い広い海と緑の濃い松島を一眺のもとに見て、自分の将来と現在の幸せを満喫したのは今思えば思かなことでした。

忘れもしません8月5日の午後5時頃です。彼女から、今すぐ会いたいという電話をうけました。その日は七夕で市内は大勢の人でげったがえしていました。M喫茶店で彼女と会い、そこで彼女の存在が現在の僕にとっては妨げとなると思うから交際をやめたいと話されました。彼女の視線が落ちつかないところを見ると、少しはなれたところに母親がいたようです。これをきいた時僕は深い谷底に突き落されたようにすべてのものが僕を押しつぶすように感じました。谷底からはい出すように喫茶店を出ると、黄色い世界の中ですべての人がいやに喜々としているように感じました。あとで聞いた所によると、娘は11月富豪の息子と結婚するのだそうです。

さぞびっくりされたことと思いますが参考となることを教えていただきたいと思います。

コーヒー

—デラツクスなムード—
—エレガントな味と香り—

お友達と御一緒にどうぞ

純喫茶 未完成

東一番丁東映前 電話(2)6601

運命には逆らえぬ

▷.....◁

佐藤 実
▷.....◁

「薬学」「薬剤師」、こんなことを聞いたり考えたりすると、うんざりとした気持ちになる。そんな時僕はプールに行っても何もかも忘れて精一杯泳ぐのである。

ここは東北大学のプールで、東北地方で一番最初に出来たプールだそうだから一部分壊れかけている。古いだけにかえて、ここでどんなことがあったかを物語っている様である。

僕は今日も子供達がプールではしゃぐのを見ている。又自分でも一しょになって浮き袋につかまったりしてはしゃいだりする。こんな事をしている時僕は一番幸福だ。子供達とは、このプールの近くの小中学生で男の子も女の子もいる。真黒で南洋の土人みたいな男の子もいれば、原色の水着を着たかわいい女の子もいる。どの子どもどの子ども楽し

◇ 新妻 卓逸 ◇

御臨終です、と云われた時、静かに床の上に横たわって「我が生涯に悔は無い」とつぶやいたらどんなにすばらしいだろう

◇ 戸引 久雄 ◇

人工(人造)一現在は何とこの言葉の多いことか、この事は科学の目覚ましい進歩を意味していると云っても過言ではない。一体人類はこの壮大な自然を征服しようとしているのか、それは可能であろうか一不可能な事だ。ここに科学の限界が問題になって来る。しかし自然の探究は絶える事なく続けられるだろう。

◇ 我々のアイウエオ ◇ 後藤 明

我々薬学科学生の対象は医薬である。現代医薬は全科学の粋である。又医薬の歴史は古く古代エジプトより、遼々と五千年以上も続いている。この間医薬も時代と共に進歩発達して来た。近頃は、対症療法から原因療法へと移り変わりつつある。このように、五千年以上もの長き歴史の流れに、巻き込まれずに、この長い流れの方向や速度を自由にあやつることこそ東北大学医学部薬学科学生の□□であり、他の大学学生との相違である。

◇ Frontier Spirit ◇ 村松 誠一郎

何事に於いても草分けは大変である。そこには数多くの山あり谷ありで恐しい獣もひそむ。しかし我々はそれに屈服するには余りに気構えが出来すぎている。否、屈服などと考える方がどうかしているのかも知れぬ。「ねえ君Frontier Spiritで行こうじゃないか！」

そうだ。こんな子供達は悩みもなく幸せだが、やがて大きくなったら、考えたり悩んだりするだろう。アブアブ、突然一人の子供がおぼれ始めた。急いで飛び込んで助けた。その時は真剣だが、人を救ったということに我ながら誇りかになるのである。毎日太陽がぎらぎらと照りつけるので、僕の体は赤かっ色になった。ひりひりして、何かに触れただけで痛い。でも自分の日に焼けてたくましくなった身体を見て満足するのである。

ビービー「終り」今日の講習会は終りだ。子供達は笛がなってもまだ泳ぎたがっている。でも体を拭いて帰る用意をしている。飛び込み台に腰をかけて、帰る子供達を見ながら、一人思ひにふけた。

大学に入ってから一年間、苦悶の中をさまよった。苦悶に苦悶の連続だった。(自分にはそう思われたのである)僕は無神論者だけど、この時だけは本当に「神様、どうか僕を助けて下さい。」と願った。僕はなぜ苦悶しなければならなかったか。これには理由なくして答えたくないのである。

去年の夏休みは大学に入って最初の長い休暇だったので、水泳の試合が終ってから、直ぐ帰省した。しばらくぶりに見た鳥海山は美しかった。僕の故郷は田舎だから大学に進む人は少ない。そんなわけで、あちこちから招待されたので、それに応じましたら、どこの家へ行っても聞かされた言葉があった。それは「薬剤師はもうかるから、いいですよ」であった。相手はそのつもりではないかもしれませんが、僕は「薬剤師」という言葉を聞くと悔辱された様な気がして不快な気持ちになるのである。僕はそんな時、すぐプールを思い出し自分を慰めるのである。

僕がT大を落ちこの大学に入ったこと、それも僕が好きでなかった薬学を勉強しなければならなくなったこと、全く運命である。「運命には逆らえぬ」これはラテン語にある諺である。映画「素足の伯爵夫人」を御覧になった方は御存じだと思います。自分の置かれた環境のもとでよりよく生きようと思う。

気がついたら日が暮れようとしている。空は真赤だ。新築された農学部の建物も夕日で赤みがかっている。僕はざぶんと飛び込んだ。

RESTAURANT	
A. I Rheingold	
TEL(2)9095	階上・御座敷洋間
SENDAI	TEL(2)6202・(2)9816

あの深い 滝谷のどこかに

M · A

最近ある雑誌で次のような文章にぶつかってハッとしたのです。ところで牧田という主人公をどう思いますか御意見を聞きたいです。ちょっとその前に興味ある次の言葉を参考までに「あこがれから人生の大いなるよろこびが誕生する。けれどもあこがれはつねに持たなければならぬ。私は思い出よりもそれが好きだ。」とガストン・レビュファという登山家がグランド・ジョラスのウォーカーハットレスを完登した時に言っているのです。

牧田はとかく荒れ勝ちな生活が続いた。憂するということは心の重荷なのである。単純な山男の心は高い山を指してしまうと、その山の他は何も心に映らないような、そんな排他的で一途な愛情に執着してしまうのだった。牧田の友人の中に、四年の間奥又白の新村ルートの冬期初登攀を目指して、その為に二年も留年し、夏の間に登ること数回、今年登れなかったら死んで帰るといって出掛けて行った男がいた。心を傾けて一つの目的に向うのは素晴らしい事ではあるが、その執念は悲しい。雪子に取って何んでもない時間なのに、牧田はその一刻に生命を刻んでいる。それは何も伝達されない無償の愛情であった。物も言わない自然に対等するように、山男の牧田は表現にまで発展した

い愛の内向に苦しむのだった。そしていつの間にか、牧田は今度の山行をやり進すことが、雪子への愛に捧げる最も高価な贈り物になるのだと考えるようになって来た。けれどもそんな風に心の中では解決してみても、やはり雪子には会いたくなって来るのである。

僕はふと夏山合宿のことを夢みるがあります。北穂高滝谷に登りながら、L子さんと聞いているのを想象するのです。僕の苦しみにあえぐ心に君は何を答えているのです。ビーンの音はいつもNO、そのキンキンと響くコダマに僕は耐えられないのです。深く澄んだコバルト色の空の下で合盤を賭けて岩にしがみついている僕にとってそれは耐えられないのです。岩登りは半日の苦しみかもしれません。けれどもその悲しみは一生のものなのです。僕の生涯の心の傷。僕はそれよりも、あっさりと岩から我身を投げ出すことでしょう。僕は落下する物体となって、滝谷のB沢に伝わり、雄滝に打ち当たりながら飛び散って行くバラバラな肉のかげら、僕はその充実を尊ぶのです。

僕にとって世の中は暗いのです。僕の入るべき日の当る場所はないのです。その陰の僕を君の無邪気な言葉が消却してしまうのです。でも、あこがれはつねに持たなければならぬというならば、僕はこれでも満足です。



有 題

今 江 眞 理

台風11号の豪雨がひとしきり激しくたたきつける屋下りあわただしく玄関を開ける音にとびだしてみると、雨合羽に身拵えをした郵便屋さんである。ぐしょぬれの合羽の下からビニールで覆った郵便の束を取出すと、二通の手紙を差出してくれた。何の変哲もないことと見過してしまえばそれだけの事である。しかし、濡れようが濡れまいがいつもの通り、門のポストに投げ込んでいっても役目は終わっている筈であろうに、雨に当たるかも知れないと云う、ただそれだけの気持からわざわざ玄関まで入ってきてくれたのだ。二時間余も遅れたのも、おそらく一軒一軒自転車を降りて、こうして渡して歩いてきたためであろう。

同じ仕事の繰返しに、ともすると事務的、形式的になりがちな人々、偽と見栄に充ちた極端に計算ずくの言動の多い世相には、その父程の年に見える人の、あまりにも誠実な姿であった。

大学教育の究極の目標は、國家社会に貢献し得る人材を育成するにあるのだろうけれども、こういった純粋な心情が時に応じ所に処して、しらずしらず現われる様でありたいものと思ったのである。

「春を求めて所々方々をまわったが、春に会わない。帰って来ると自分の家の門に梅が満開で笑っている様であった」と云うこともある。

それにしても、がむしゃらに大学を目ざして来た自分が「…学理の探究と人間完成とを二つの命題とする…」と云う訓辭に、改めて武者ぶるいした入学式の感激から、またたく間に数ヶ月が過ぎ去ってしまった。この間、至上の命題に対して果してこの期間に相当する内容を積重ねたであろうか。果して…等と云うのすら気がひける。漠然と——そんな言葉きり表わし様のない、上滑りなものでしかなかった。そして浪人までして入った自分であるのに、何と後味が悪く、不安なことであろう。それに大学そのものにすら期待はずれの失望を感じるのである。

しかし「思ったより……」とか「期待」とか云うけれども、一体それじゃ、どの様な期待と抱負を持って入って来たのかと自問する時、具体的な、自主的なものを上げられる訳でもない。ましてこの三ヶ月、一冊の本をすら満足に読んだとは云えない。こうしてみると、しきりに感じられるもの足りなさ、不安さ、焦燥も、つまるところは自分の内容のない貧弱な勉強なり生活、そして浮わついた漠然とした大学観にあるのであって、進路を誤ったとか、薬学科の前途が不安だとか云うのは一つの口実すぎないかとも思う。

あ の こ ろ の こ と

中 村 善 次 郎

春はまだ浅く松林の中では風も少しはだ寒く感ぜられる。遠くの方で鳴いている目玉の鳴き声もまもなく、この海辺の松林を去らねばならぬため冬の鳴き声と異って哀調を帯びているように聞こえる。

松林を通り抜けてしばらくして丘に出るとそこには日をいっぱい浴びてすみれが一面咲いている。ここはもうすっかり春になっているが、松林の中はまだ冬を抜け切っていないのかもしれない。

松林の上に姿を見せている富士には、雪が美しい形に残っている。

前方は海でその向うには伊豆の山々がかすんで見える。この目に映る故郷の風景は、以前のその中で生れて、その中で育った信輔の心とは異って、都会であくせくと生活している現在の信心にとってやはり美しいと感ずるようになった。信輔は自分がこの静かな自然の中に引き込まれて行くような気がした。しかし同時に動いているのは、いろいろなことが浮んでは消えて行く自分の頭の中だけのような気がして、自然と調和しないのは自分だけかと思った。

一年三組は、習字の時間であった。信輔はまわりでみんなが一生懸命に習っているのをうらやましく眺めていた。信輔もこれまで七・八枚練習したのであるが、少くとも自分にとって満足の行くようなものはなかった。あいにく半紙も終っていた。もう時間もないので清書を仕上げなければならぬ。信輔は少しあせりを感じて、となりの和夫君に半紙を一枚くれるよう頼んだが、和夫君は信輔の無心を断った。すると信輔はやおら席を立てて和夫君の顔中すみをぬってしまった。

二年生は、運動場で遊戯の練習をしていた。あと五日後にひかえている運動会のためである。先生の熱心な指導の割には生徒の遊戯はあまりかんばしくないようである。そのうち時間もたつて「上手に出来たものから帰ってもいい。」と先生がいった。回を重ねているうち残ったもの

は、信輔と明雄君と治元君だけになった。しかも治元君が帰り、明雄君が帰ってもいいと云われると信輔は少し不満をおぼえた。自分ではそれほどまずくないと思っているのに、先生がいいと云ってくれないのが不思議でならなかった。また一人だけ残されるのもさびしかった。「僕だけ一人でやるなんていやだ」そう云いながらも心中では泣きたいくらいだった。「それでは明夫さん、信輔さんが出来るまで待っててあげなさい。」先生はそう言って信輔に遊戯を続けさせたがその後いっこうに「いい」と言ってくれなかった。

「家で宿題の書取をやって来ないものは放課後残ってやってくる」という信輔にとっていやな規則を先生が決めた。ある日のことである。「先生終わりました」信輔が云うと先生は信輔のノートを見て「こんなにきれいに書けるのではないの、今度は宿題を怠けてはいけませんよ。」そうやって「優秀」と大きくノートに書いてくれた。成績の段階は優秀・優・優下・良・可であった。信輔は自分と縁のないような「優秀」をもらって少しばかり得意になった。そしてまだ残っている四・五人にノートを見せながら言った。「どうだ、うまいだろう」みんなは信輔のノートをはらだたしいような、うらやましいような顔で眺めていた。

三年三組の教室では、小林先生が顔に青筋をたてて怒っていた。先生の不在中生徒が大騒ぎをやったのでとなりの教室から苦情が出て、それを先生が怒っているのであった。「君たちはあれほどいったのにわからないのか、学校がいやなら出て行け」すると後の方に座っていた信輔は立上って云った。「それでは出て行きます」信輔はさっさと教室から出て行った。クラスみんなはなんとも云えないような顔付で、一人出て行く信輔の後姿を見送っていた。

信輔は梅の花が好きであった。

“学校帰りに近道を
通ってくればどこからか
ほんのり匂う梅の花”

草の上に寝て遠くに浮んでいる雲を見ながら口ずさむときの信輔は自分の心が澄んで行くように感じて遠く、かつ、はるかな気持になった。

一 般 医 薬 品

齊 木 商 店 薬 品 部

齊 木 薬 局

仙台市小田原車通り11
電話(2) 6 6 0 4

理化学機械器具・各種顕微鏡販売
一般光学用機械器具・並ニ修繕応貴需

西 商 会

仙台市霊屋下七九
TEL② 0 3 9 5

人 間 性

塩 谷 悟 作

真夏の太陽がキラキラ光り、よねの歩く道をさえぎっていた。よねはトボトボと一本道を歩きつづけた。食物の味をよく味うように。＼いも＼の入った買出し用の大きなリックが肩にくい込んで、いたさを感じて来た。汗がポタポタ流れて、ひとしづくひとしづくがダイヤモンドと輝いては土の上に落ちて、黒い灰と化していった。もう暑さ等に等する感覚が麻痺されてしまいそうだった。唯重くて、リックのひもがくい込んでいると云う苦痛しか感じなかった。並木になっている林の中から、ジージーと蟬の鳴き声が聞えてきて、それがよねの汗を一層滴の如く流れ出させるようだった。「戦争なんて無情だ、敗戦なんて悲惨だ。」と云う観念だけはひとなみにもっていたが、今までの苦勞など知らなかったよねには、始めて戦争の真隨がよみとれた。戦争は全ての物品等を破壊し失ってしまうが、それと反対に精神的な＼生＼と云うものを強く反映させるものだとも思った。自分に関係している事ばかりがよねの頭の中にかび、その他の事と云っても、歩くことのみ精いっぱい、自分に直接関係ないことなんてみちんも浮び上らなかつた。何時間も歩いていると、頭の中はニヒルだ。道には誰もおらず、唯長さとも無情にも終っていた。せめても己には客観的な己の姿が見えないことを喜んだ。もう羞恥心とか外聞等も考えないこの環境では、生きて行く事のみが精一杯の仕事だ、兎まれ、＼人生って生きていくことじゃないか＼、この信念に基いて生きて来た彼女だ。元來彼女の考えは先にばかり進んで、それに行動が伴わなかつたのが常のことだったが、今ここで自分の考えと行動の一致点を見いだして、彼女を何かしら満足させた。道が下っている時などは、地下足袋をはいた足の指先に全重量がかかり、苦痛をおぼえる。成程足は便利なものだ。

〇〇駅についてのはかれこれ十時近くだった。すでに△行はなく、よねには駅で夜更しするより外はなかつた。駅員に、今夜一夜だけ駅員室に宿る事を頼みこんだが無駄だった。せめて構内にでもと許を受けて、構内のベンチにやっと腰を下したのは11時も過ぎてしまっていた。最終列車もすでにひっそりしており、後はよねと同じような買出し人風の男女等が、あちらこちらに散在していた。「今夜一晩だけでも寝ずの夜ふかしか、と心に思い、せめて体を楽な様にと＼いも＼の一杯入ったリックと手さげとふろしき包を両わきに置いて横になった。構内はほとんど電燈を消

してしまい、唯向こうの方のボツンと小さい光だけが目についていた。むし暑い晩だった。目だけは唯光のある方にだけ向いており、家の事が急に恋しくなった。横になっても、このやせた体は骨と皮ばかりの様にやせ細ってしまい、よくも、こう5、6貫もあるものを背負ってこれたものだと思いつく思い出された。今日家を出たのが6時半、かれこれ2、3時間も立ち通し、それに各農家を足を棒にして歩きまわり、農作物も分けてもらうように頼んだがどこでもどこでも少ししか分けてくれなかつた。全くのインフレでどの農家も農作物を手放したくない様子だった。どん欲なのは百姓だ。町の人々はこんなに苦しんでいるのに、と百姓を輕蔑しつつ、現在の境遇に妥協せずにはいられぬ身のつらさだった。元來のよねの考えは、實際行動よりも先に走っており、自分自身の行動が伴わなかつた。それを何回も繰り返して来ると当然の様に思われ、後で気付く時は自分の心のあさましさ、世の無情がひしひしと感じられ、自身心の中でむちうつのがついにはそれも無益になって来るのだった。戦争で長男をうばわれ、後に残った次男のひろし、三男の隆一、長女の由子、次女のまさえ、三女の八重の7人くらしで、ひろしは父親につれられて近くの工場に働きに行っている家庭だった。配給米だってほとんど食うに足らぬものなので、こうしてよねが買出しをせねばならぬ羽目に落ち入ったのだ。始めての買出しでもあるので、気の弱いよねにはどこでどう買込んで来るかも知らず、唯近所のうわさだけを聞いてとびだして来たのだった。来て見て始めて自分の無暴さに気がついた。しかし幾10軒を歩いている内に5、6貫になったとは云うものの、もうその時はすでに3時近くであった。家ではさぞかし心配しているだろう。早く寝ていてくれればいいと念じた。この様にゆったりしていると始めて自分の空腹に気がついたが、もう店もしまっていた。たとえひらいていても食う物なんかありゃしない。しかしそう思うと一途に空腹が身にしみてきた。いや今日農家で買ってきた桃があったっけと思い、それを手さげの中から取り出して、その一つにかぶりついた。一口食うと後は夢中だ、たちまちの内に一つを食いつくした。もう二、三個あるがどうしても家に居る子供の顔がちらついて食えなかつた。でも腹は空いている。子供に食わせたいと云う問題にはさまれて人間なんてなんで物を食はねば生きて行けないのだろう

とさえ思ったが、腹はへる、えいままよと思い、リックから生のままのいもを一つ取り出す。何の味もしない。唯口にデンプンの様なしこりが残る、二口三口食ってしまうとあとは気持ちが悪くなりベツとはいた。何とも食えぬ。だが何ともいたしかたがない。これまでに落ちぶれた自分を悲しみ、心の中では泣いた。泣け、泣け、気をはらすまで泣け、と叫びながらその内に涙がむしろうに出て来た。こう色々思案をめぐらしていたが、昼のつかれが身にこたえたと見えて、ついうとうととして来た。よねは長男の夢を見た。長男と自分とは大きなトンビになり、青い広い大空を悠々と飛んでいた。羽を大きく広げ、ビーヒョロビーヒョロと楽しくさえずり、風に乗って飛んでいた。このまま日本をぬけ出して、外国へとんで行きたい気持ちだった。あ、自分の家が見える、——が出て来て空をあおいで手を振っているのが見える、自分達に気付いたのかなと思って飛んでいると突然バンと鳴る音がして、自分の羽根のつけ根に痛いものを感じた。ああ羽を動かせない、しかし痛いと思った他は何の苦痛も感じない、しかし飛べない、飛べない、スーと空から落ちて来てハッと夢からさめた。回りのそうぞうしさにぱっと気をたしかに持ち、わきのリュックを手まさぐったが手ごたえがない。よりかかっていた風呂敷包だけがとり残されていた。盗まれたのだと気がつくと腰の力がぬけてきて、無意識の内にベンチにベタンと座った。目からはボタボタと止めどなく涙があふれて来た。の

ろうべきは戦争だ。息子まで奪いその上に自分達にまでめいわくをかけて、と戦争をのり、日本の立場の苦境を泣いた。

◇自分にも申す◇ 今江真理

あんまり周囲を気にしすぎはしませんか？

「…あんなことやって…」 「…あんなこと云って…」 「…あんなもの見て…」 「…あんな様子して…」 「…あんな顔して…」 —結構放つといっていたかきましよう！こんな具合にはいかないもんかねエ。

◇勝手な意見◇ 永谷富子

富沢は正に愛すべき所。勿論、薬学科だけというのではたまらないが、今までの状態で行けるものなら富沢に通いたい。とかく人づき合の下手な自分は、あまり人間の多く集まる華やかな所を望まない。(恐縮を感じ乍ら……)

◇ ◇ 岩動淑子

「東北大の薬学科ですか。いいですね。将来は立派な薬剤師ですね。」 「もう薬のことなんかわかるんでしょう。」

私が最も嫌いな言葉だ。第一まだ教養部だし、薬剤師という言葉がいやだ。皆さんいかがですか。

抗生物質はビタミン入時代！

V.B群及びK添加

クロラムフェニコール

勝子フス・赤痢
百日咳・肺炎
淋疾・梅毒
急性化膿性疾患

★パラキシンSFは、耐性少くショックなどの心配のない、安全で広奏効性の新抗生剤です。

★パラキシンSFは、V.B群及びV.Kの添加で、抗生剤共通の予後のビタミン欠乏を防ぐ、わが国初めてのビタミン入製剤です。

特許第228439号 (社保適用品)



ベーリンガー(西独)
山之内の技術提携品

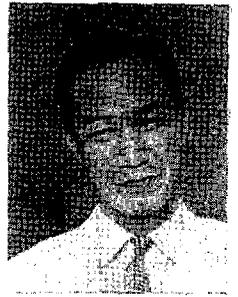
パラキシンSF

(包装) 50mg 25錠・100錠 250mg 12錠・100錠

東京日本橋 山之内製薬株式会社 大阪・福岡・札幌・名古屋

二岡崎教授回顧二

☆☆ 生みの苦しみと楽しさ ☆☆



薬学科教授 岡崎 寛 蔵

昭和拾八年、デカルボウスノールの構造決定で学位を取り、得意の絶頂にあった私に待って居たものは北京大学教授であった。しかもその俸給たるや当時の助手の月給の85円に比べて拾倍近い、800円である。まことに夢のような気持であり、ラビヤンローズであった。

ところが丁度その頃中国の視察から帰った藤田教授の話では、北京は目下インフレにて800円位の月給では最低の生活しか出来ぬという。インフレの何んたるかを知らなかった当時の私としてはまことに諷刺に苦しんだが、同教授の奨めで一応御破算にした。丁度その頃、軍医養成の至上命令により、各地に医専が出来ることになり、その手始めに前橋にそれが設置された。そこで薬局長兼教授を求めているという。その条件というのがあるべく医学と協同研究しえる人という。薬学の世界の狭さにいささかあいそをつかしていた自分は同時に化学療法にも興味をもっていたので、渡りに舟とばかり、言われるままに履歴書を書いた。

さて年も変って、19年2月末のことである。秩父の嶺を車窓に懐しく眺めながら、希望にふくらむ胸を抱いて赴任の途についた。

高崎で乗換え、うらぶれた前橋の駅頭で、博物館開きのような電車に乗って発車を待った。ふと前を見ると、こちらあたりの人とは思えぬ人品いやしからぬ眼鏡の紳士が居る。有名なからっ風は窓ガラスを揺ぶり、隙間風が身を切るようだ、やがて真黒に陽に焼けた女車掌が運転手と共に乗り込み、窓から体を乗り出して、ポールを電線にかけると、大声で「イイヨー」とどなった。

初めてこのすさまじい上州女にぶつかって、どきもを抜かれた私は流石はかかあ天下の土地だ、大変な処へ来てし

まったものとしみじみ感じた。

ガタゴトと電車はキシミながら動く、私は窓に移ろう街などをじっと眺めていた、車掌の岩神、岩神と呼ぶ声に、あわてて降りてしまったが、さて学校らしい建物は無い。あたりの人に尋ねても、首をかしげて知らぬという。心細い限りである。やっと交番を捜しあてて尋ねると、この次の停留場で降りるのだとの事、やむなく線路ずたいにしばらく行くと、製糸会社の白壁か倉庫のはずれで、展望は濶然と開けて赤塚、襟名が目の前にくっきりとそびえている思わず立ち止まるとその襟名の側のたんぼの真中にボツンと赤屋根の校舎がたった一棟目に飛び込んで来た。まわりは立木一つなく、爾々たる野面を枯草をなびかせて北風が吹えた。

さて校舎に近づくと、どこが玄関かさっぱりわからぬ、いや玄関らしいものさえない、端の入口らしいところから入ったが、受付もない。止むなく無人の廊下をギシギシ渡っていくと人の気配がしたので、そこの戸を開けた、事務室らしい、片隅みのタイピストに名刺を渡して来意を告げると、そそくさと去り、やがて教務主任の山本教授(細菌、現伝研教授)が現れ二階の会議室に運ばれた、そこに先刻の眼鏡の紳士も居り、皮膚科の山崎教授と知った。後で彼とは協同研究もやり、痛痒の研究の相談にも乗った。そして又、私のその後の糸状菌の化学療法のきっかけともなった。因縁とはおかしなものである。

尚、さきのタイピストは終戦後、女ながらも共産党の闘士となり、職組の女子部長をつとめたが、後日、「あの時の先生の第一印象とっても素敵だったわ」とぬかしたが、タイピストの辭に不遜だと私は決して思わない。それは建

薬化学書の専門店

一般教養書の御用命も当店へ。

アイエ書店

仙台・東一・七一
電話 (2) 七九五七

純度の正確斯界随一を誇る

一犬印試薬一

大信化学株式会社

仙台市荒町19番地
電話 (3) 3 5 4 5

設の苦しみと、喜びを共に幾年月味わった血の通った友情である。

いやタイピストどころか、小使、掃除婦に至る迄、親密愛情で結ばれていた、これは建設の楽しみの一つである。

さて、病院に乗り込んだ私はしばし果然と立ちすくんでしまった、そこはがらんとして何も無い、ただ骸骨のような建物のみがあった、薬局など、そなえつけて動かさぬ流し一つ。あとはなにもない、きれいさっぱりしたものだ。それと云うのは、この農協の病院が学校に接収されたものの、職員は院長以外は教授の資格がない、そこで流石は上州である、国定忠治や大前田英五郎の血の流れる親分肌の院長は自分一人残るのをいさぎよくとせず、子分をひきつれ、医療機械、薬品、調度品の一切を持って、他に転移してしまっただ。

それからは、まさに戦場のような忙しさ、とにかく薬局長、教授兼局員、小使である。各医局と同様、教授と婦長しかいない。

薬品の発注、検収、帖付け、すべて自分一人でやる。そのうちやっと日赤の薬剤師が一名採用され、手伝いが出来た。四月一日から開院の予定なので、滝沢の親爺（医療機械屋）を押し倒して、調剤台を作ってもらうことに成功した。薬品倉庫、製剤室、注射薬製造室等を獲得すべく交渉する。当てがわれたのは、病棟の北側、暖房がなくて、寒くて患者を収容出来ない部屋ばかりである。これも又止むを得ない。

そのうち調剤台が出来たの知らせに、三拜九拝して県庁のトラックを借用東京まではずんだ気持で受け取りに行くのだがそこに待っていたのは悲憤やるせない場面であった。

来合せた軍の年若な薬剤師が店先きに持ち出された真新しい調剤台を横目でにらむと「いいものがある、軍でもらっていくぞ」と云って、私達の見ている前で悠々と運び去ってしまった。

帰り途、麦の青さも目に沁みる麗らかな日和であったが、私達の気持は雲が低くたれこめ、いまにも泣き出しそうであった。それを歯を食いしばって我慢した。

仕方がない。

そこで解剖の実習台をかりて、丁度その頃廃業したデパートの陳列ケースを乗せ、臨時の調剤台とする。割にスマートである。しかも用のない時は戸が立てられる。そんなことにもささやかな喜びを見出しながら、困難に耐えて行く。

薬包紙はザラ紙を裁断して作った、膏剤はあり合せの洗面器とスリコギでやる。注射等の滅菌には饅頭を蒸すセイロを使った。

こうした中に局員も5名に増え、（ここ迄ふやすにも随分と苦勞をした。）一同心を合せて働き、どうやら予定を一月遅れたが、開院の運びとなった。

そして、ある日慰勞のため、伊香保に遊んだ、その思い

出の写真は、当時をありありとまぶたの裏に画いて見せるやっと軌道に乗ったかと思えた病院も翌年戦災で焼失した。余燼の消えやらぬ曉の焼跡で手を握りあって再建を誓った、折からさし昇る朝日も涙でゆがんで見えた。

建設、建設、そこに残されるものは不撓不屈の精神ただ一つである。

終戦時の困難を克服して、バラックが建った。一棟建っては又工事がしばらく中止する。材料の値上りで遅々として進まない。薬局も転々として移動を余儀なくされる。その中であって、基礎教室の一室を借りて、黙々と研究は続けられた、終戦後、第一回の金沢に於ける学会では「アオバアリガタハネクシ皮膚炎惹起性物質」と題する講演を行った。これは例の皮膚科との協同である。

やがてバラックなりに病院は完成した。そしてささやかながら落成式が挙行された。こうなるともう遊んでいられない。注射薬製造用の滅菌器もはいった。倉庫の隅には、抱き合せて買わされた試験管が何百本とところがある。孵卵器も何台もある。これに目をつけ、微生物ではなく、植物の抗菌性をやることにする。幸い植物採集は中学時代から好きでもあった。足にまかせて材料は採集する。早速薬局員の一人を細菌に送り、技術を習わせる。それから雑草をとって来る。それが済むと郊外に足を伸ばす。やがて赤城の麓から、中腹、山頂へと手じゃない足を伸ばす、榛名、浅間を征服した。一方かかって多々良沼へも遠征して水中、水辺植物にも及んだ。

こうして上州の山野を隈なく歩き、一年間に1000種の植物を集め、その抗菌性を調べた、今頃はあの大胡のあたりに赤城の麓の草原にフナバラ草の花がひそかに咲いてもいるだろう。

そのうち新潟大の塚本教授が九大薬学科の創設に当ることになり、その後任として私が呼ばれた。そして終に懐しい山河とも別れることになった。

その頃は既に校舎も完成し、病院も当初の僅か60ベットから200ベットに増加していた。

しかも医大に昇格し、近いうちに内分泌研究所も設置される気運にあった。そして今では500ベット近くもなり、その後の焼失も手伝って、本建築も着手され、図書館、学生ホールも出来、内容に至っては法医の井関教授のように学士院賞受賞者も出た。

こうして苦しかった建設も立派に花咲き実ったのである。

今ではもはや苦しみは昇華し尽して、ただ楽しかった思い出のみがなつかしいばかりである。

以上、東北大薬学科の創設に当って、過去の経験を物語り、諸君の参考に供する次第である。

x x x

x x x

校舎問題解決までの経過

中野卓雄

一校舎の焼失—

昭和33年4月14、5日、相次ぐ不幸が私達薬学科学生の身上におこった。即ち片平丁校舎の焼失、故一色考先生の御逝去の出来事であります。

片平丁校舎は、33年度の後期専門課程から新校舎の建設まで、一応漸定的に使用する予定になっており、旧工専時代の古風な建物であった。建物の内部は旧二教が使っていた当時のままであったのでクモの巣がはりめぐらされ、埃で一ぱいであったが、正面玄関に土木工学科の古い看板とは対症的な真新しい板に書かれた見る目もあざやかな字はすこぶる印象的であった。「あみこす」、第一号の巻頭言の上に当時のおもかげをしのぶことが出来るが、まさかあの写真が最後の記念写真になろうとは……。

校舎の焼失と同様故一色教授の御逝去は全く信ずることは出来なかった。この不幸は、校舎の焼失のため名古屋の学会からの帰仙の途中東北線車中に於いておこった。

新入生を迎え、我々も二年生になった。我々の前にまっていたのは夢と希望にあふれた第一歩とは異って校舎もなく教授もいないという、全く希望と不安の入り乱れたスタートであった。後任の先生の問題はどうなるんだろう。校舎の件はどうなるんだろうか。教養部の川内移転が本決りになった当時、富沢は前期だけだと思ひ、新校舎がすみやかに建つんだということを念願し、そう信じて疑がわなかったが、しばらくして発刊された学内新聞によると、「漸定的措置として薬学科後期専門課程よりの授業を富沢で行う予定」という記事が載っていた。一瞬これをみた時ぎょっとし、勉強しようという気持ちが以前にも増してスウーッとぬけていくのを感じた。これはえらいことになった。漸定的措置とはいいいながら恒久的なものとなる可能性が大きい。まごまごしていると富沢の山の中で永久にかすみを食って勉強しなければならない。静かで、景色が良くて、まことに勉強には絶好の場所であるが、あらゆる条件を総合して、立体的見地から判断した場合、真の学問をする所としては断じて適していず、病人療養の適地としか考えられない。一例を上げるならば市内に出ていくのに一時間ばかり食う。バスと電車があるが、バスは車が六角形ではないかと思われるように、ガタガタゆれ、正門につくまでには相当な肉体的苦痛を感じ、気持ちが悪くなり、健康上大いに支障を来たし、電車といえはのろのろ一時間おきくらいで

のんびりしているから、いざ鎌倉という時には全然役に立たない有様で、はじめの一、二ヶ月はよかったが、つくづくその不便さに身をもてあましている折であった。新校舎がいち早く建つものと期待していた我々には相当のショックであった。再三のショックに学生の気持のみだれは薬学科の将来に大きく影響しはじめて来た。

この漸定的措置としての富沢決定案はやむにやまれぬ学校当局の措置であるとはおもいましたが、ある局面をとおしてのみ判断した、学生の私生活の便宜を考えない苦肉の取決めのようにしか感ぜられませんでした。富沢の長所短所もよく知っている。教養部二年間かようにも相当の不便をきたすことを身にかけて知っている。いくら漸定的措置といってもここに専門課程をもって来て勉強することなど不可能であり、この為の学生の精神動揺を考えるならば、あまりにも薬学の将来を考えない無謀な措置ではなかったのでしょうか。なんとかして富沢で勉強することの不可能なことを先生方に納得してもらわなければならない。もしここで富沢が正式に決定されるならば薬学科の将来はあり得ない。一日も早く先生方にこの点をみとめていただこう。これと平行して人事問題、新校舎の問題も早く考えてもらおう。という気運が学生の間におこって来た。

—誠意へのスタート—

それにはまず、その後の事情、学校当局の考え方がどのようなものであるかを知ることが先決問題である。それ故その学校側の事情をきいてくるために、第一期生の村田君柴田君と僕が正式にきめられた。ここに我々の誠意を訴えるスタートが切られたのである。

まずその後の事情を先生側と事務側からきくために、昨年12月江陽会館で行われた親睦会に出席された関係から多少顔なじみであったので、黒屋教授、岩口助手、相沢事務官を訪ねて、その後の事情をお聞きした。この時お聞きした内容は第一報としてプリントに刷っておくりにしたので、よく御承知の事と思うから、ここでは割愛することにする。一刻も早くこの事情を知らせ、この問題を討議するために、桜咲きみだれた緑の芝生の上で、会員参加のもとにクラス討議が行われた。全く真剣になって討論してくれた。行きたらない事情に大いなる不満の色が全員にあらわれ、再度事情をくわしく聞いてからに討議しなোসという事になった。今までクラスのことなどに全然無関心のように

場合、恒久的新校舎の建設はなお大きな問題であり、我々としては出来るだけ早く建てることを念願し、一時とてこの問題を考えなかった時はないのです。この問題は我々の力ではどうすることも出来ない大きな問題なのです。文部省の考えと、東北大学全学部の考え、特に、医学部内の意図が薬学科の校舎新築に傾いた時始めて、現実の建設の問題として我々の前に大きく浮び上がってくるのです。しかしこれはそう簡単にはすまされないので。大きな問題がその背後にからまってくるのです。どこの学部、学科等でもこれで満足だと云う建物は無いでしょう。自分の所を先に建てたいのは人情でしょう。又学部内でも細部にわたってうまくいかないのも多いでしょう。だがこう云ういろいろの問題をぬきにして我々薬学科の校舎問題は早く解決されねばならない重大問題なのです。我々はいつも心の中で次のように思い、訴えてきた「教授もいないのです。校舎もないのです。薬学科の運命をかけた大事な分岐点に立っているのです。新設学科は他の学部、学科の温い援助がなければ育っていかないのです。我々を見殺しにしないで下さい。」そこでこういう難問題がいち早く解決されるように、学生として出来るだけのことをしようという考えが全員の総意のもとにみとめられた。

かねてから愛知探一先生が薬学科新設に多大な功勞者でおられることをきいた我々は、先にのべたような実状に薬学科の現状になっていることを、学生として愛知先生に会って御話し、御理解していただき、なお一層の御助力を薬学科のためにしてもらいたいと思っていた。この事を八人で武藤先生にお話ししましたら、先生個人としても出来るだけの努力はするが、学生として愛知先生に誠意を示すのも結構であろうと云う御了解を得、かつ又親身にいたった御紹介をしていただき、選挙後愛知先生が帰仙なされた時、自宅に於いて大変御多忙中であられたけれども、わざわざ御会い下され、三十分と云う大変長い時間我

々の説明に耳を傾けて下されました。東北大学全体の考え即ち世論といったものが薬学科新築に傾いたら一層の努力をおしまないというお約束を得た。出来れば追加予算の面で何とかならぬものと願った。又学生としての誠意を東北大学のみならず、文部省当局にも示したいという、もし全学生の意向がそのつもりで東京に来るならば文部省に御案内してやろうという御確約を木村秘書官から得た。

このために一応形式的に陳情書を作成した。八人の者があらかじめ原案を考えていったのが「あの字は平仮名にしる、その字は漢字にしる、それははずれ、その文章全文をこのように変えろ」といった具合に見事にほとんどの箇所で大改修が加えられた。これに三、四時間ついやされた。この時は全く嬉しかった。赤裸々な姿を見たからだ。その陳情書を今頁の下に示すことにする。

又この間総長及び医学部の基礎及び臨床の諸先生方にクラスの者が手わけしてお会いし、薬学科の現状を説明し、力ある先生方の御理解ある御支援を求めた。

総長及び医学部の先生方並びに事務局以下の方々に大体お会いし、御理解していただいたので、次の段階として、いよいよ文部省に行き学生としての誠意を示していただくことを全会一致でみとめた。三人の代表をきめた。総長並びに医学部長に文部省行きの事情をはなし了解を得た。

先日のお約束通り首相官邸に木村秘書官をたずね、福田文部次官に面会の手続きをとっていただき、午前中に次官にお会いし、薬学科の実情をはなし、今日の陳情は、学生としての誠意を訴えるために、東北大学医学部薬学科学生全員の考えでお伺いした旨を伝えた。「大学から申請書が出たら出来るだけ予算の面で努力してくれましますように」と短い時間であったので、現状をくわしく説明出来なかつたが、誠意だけは通じたものと確信している。この外局長、課長にも一人一人お会いし、陳情書を提出し、実情を説明した。薬学に関係ある各方面からの御援助も依頼した。帰

裏

表

<p>理由 東北大学医学部薬学科が本年度(三十三年度九月)後期より使用予定の研究室、講義室並びに実験室が去る四月十四日工学部土木工学科からの出火により焼失し、今後の専門課程における研究、講義及び実験が不可能となりました。 尚他の学部、学科の教室の借用は現状では困難であります。 右のような実状に鑑み、又この新設学科の東北における将来の発展性を考慮せられまして、すみやかに東北大学医学部薬学科校舎の新築に関する予算措置を講ぜられますよう、東北大学医学部薬科学生の総意をもって陳情致します。 尚、新築の為の敷地は医学部内にすでに買収済であります。</p>	<p>要旨 東北大学医学部新設薬学科の為に緊急に校舎を新築される様陳情致します。</p> <p>東北大学医学部新設薬学科 校舎新築に関する陳情</p>	<p>提出日 昭和三十三年 月 日 提出者 東北大学医学部薬科学生一同 右代表 殿 東北大学医学部新設薬学科 校舎新築に関する陳情書</p>
---	---	--

仙後、東北大学の予算の申請書は7月までに出来上ってしまい、大学の最高の機関である評議員会が6月の25日にあるときいていたので今年度の追加予算又は来年度の予算にくり入れてもらうために、なんらかの評議員の席上で新築の問題を議題にしてもらうために足まめに各評議員の先生方いくつかのグループに分れてお伺いし説明した。時間の都合上伺えなかった先生方は失礼ながら郵送いたしました。先生方は好意的であり、医学部内がそういう意向なら大いに援助してもよいとの御返事であった。このような経過をたどり、岡崎先生の御赴任により、この度ようやく人事問題、校舎問題(漸定条件は医学科内に、恒久的問題は来年度あたりから着手するらしい)に一応の決着をみるにいたりしました。このように円滑に、最も理想的な面にこの難問題が解決のはこびにいたったのは有力な方々の深い御理解、御努力の賜と思ひ、我々学生一同感謝感激にたえません。

ここで具体的経過をまとめてみることにいたします。

4月14日(月) 土木工学科よりの出火のため、薬学科が後期専門課程より使用することになっておりました片平丁校舎の焼失。

4月15日(火) 名古屋の学会より校舎の焼失のためお滞りの途中、東北線車中に於いて、故一色孝先生が御逝去なされました。享年43才

4月16日(水) 柴田君、武藤、黒屋両先生に電話し、学生としてなすべき用件をたづねる。

4月17日(木) 故一色先生の葬儀行わる。

4月29日(火) 日の出八階に於いて、薬学科新入生歓迎コンパが催された。二年担任三岡先生、一年担任高橋先生以下40人各出席。

5月2日(金) 黒屋教授、岩口助手、相沢事務官にお会いし、その後の人事問題、校舎問題の概略を伺う。その内容は第一報としてプリントにすてくばる。

5月6日(火) 教養部内、三神峰山上に於いてクラス討議する。第一報のプリント内容がお泊末なためもう一度くわしく事情を伺いにある。

5月8日(木) 武蔵医学部長、内田事務局長にお会いす。第二報としてプリントに刷ってわたす。

5月9日(金) 黒屋先生に富沢の欠陥例の文書を手渡す

5月13日(火) 12時より山の上に於てクラス討議、毎日全員集ること不可能につき、他に5人の委員を決める。京田君、草野君、林さん、三野君、柳瀬君

5月15日(木) 化学講義の後、食堂に於いて8人の会議を開く。

5月16日(金) 黒屋先生にお会いする。富沢の不可能な点を切実に訴える。

5月19日(月) 8人で黒屋先生に会った。夜、長陵会館に武蔵先生を訪ねる。その後の事情をたずね、愛知先生へ御面会の了解を得、紹介状をいただく。

5月20日(火) 朝、愛知先生をお宅に訪問留守、木村秘書官に面会、25日選挙後帰仙、その時にお会いするという約束を得て帰る。朝10時、黒川総長にお会いし薬学科の現状を訴える。

5月22日(木) 一年生とのクラス討議。

5月23日(金) 岡崎先生にお会いする。

5月24日(土) 医学部基礎医学の諸先生方にお会いす。(本川教授、和田教授、正宗教授、師教授)

5月25日(日) 愛知先生を仙台駅に出迎える。

7時50分、薬学科学学生一同大瀧森へハイキング、9時愛知先生訪問

5月27日(火) 薬理学一寺坂教授、法医学一村上教授に

お会いする。

5月28日(水) 午後、文部省に行くため帰京。軍中京都の学会へ行かれる武藤先生に合う、東京行き了解を得る

5月29日(木) 在仙の人達が、総長とお会いし東京行き了解を得る。

5月30日(金) 朝、首相官廷に愛知官房長官秘書官木村氏を訪問する。文部省に福田文部次官を訪ねる。陳情書提出。以下局長、課長にお会いし上京の理由を説明し、陳情書を手渡す。午後、銀座に、日本薬剤師協会を訪ね、出来る限りの御支援をお願いし、参議員会館に於て、高野協会長にお会いする。(高石、村田、柴田、中野)

6月17日(火) 学生食堂(公孫樹)に於いて、岡崎先生をまじえ、親睦会を催す。出席者72名薬学の現状及び今迄の行動を6月25日の評議員会まで評議員の先生方に一人一人お会いし説明し、陳情書並びに富沢の欠陥例を手渡し、評議員会の席上新築の件を議題にしてくれる様にたのむ。

名前、評議員、医学部の先生方

△評議員の先生方で直接お会いした方々は

黒川総長、小林文学部長、塚田教育学部長、藤瀬理化学部長(代)、武藤医学部長、渡辺工学部長、金倉教養学部長(経)、世良教授(法)、鍋島教授(経)、半沢教授(理)、本川教授(医)、黒屋教授(医)、神田教授(金研)、福本教授(富沢)、加藤教授(理)、坂本教授(農研)、海老名教授(抗研)、島海教授(非水研) (代)…代理(順不同)

△時間の都合上失礼ながら郵送止むなきにいたった評議員の先生の方々

高柳法学部長、木下経済学部長、今井農学部長、新明教授(文)、林教授(教)、坂山教授(工)、的場教授(工)、伊東教授(農)、松山教授(科研)、小野教授(富沢)、末永教授(経)、麻生教授(農)、大日方所長(金研)、日比所長(科研)、沼知所長(高速力学研)、小野所長(選鉱研)、永井教授(通)、(順不同)

△医学部教授

武藤医学部長、黒屋教授(細菌)、浦教授(解剖)瀬戸教授(解剖)、森教授(解剖)、和田教授(生理第一)、本川教授(生理第二)、正宗教授(医化)、諏訪教授(病理)、寺坂教授(薬理)、佐野教授(小児)、桐沢教授(眼科)、高橋教授(皮膚泌尿)、綿貫教授(麻酔)、村上教授(法医)、瀬木教授(公衆衛生)、島飼教授(内科第一)、桂教授(外科第二)(順不同)

高瀬薬局長 佐藤医学部事務長

△文部省関係者

教育施設部長 田中徳治、大学学術局長 稲田清助、庶務課長 浦生苦郎、大学課長 春山順之輔、技術教育課長 妹尾茂喜、学生課長 西田亀久夫、研究助成課長 中西勝治、学術課長 岡野澄、学術情報主任官 村上成一、教職員養成課長 村山松雄、調査局長 北岡健二、社会教育局長 福田繁、管理局長 小林行雄、大学学術局長 緒方信一、助成課長 今村武俊、(順不同)

約150名程の各々にお会いして御説明申し上げて来た。

薬学科学学生諸君へ

以上のような経過をたどり、我々薬学科学学生は出来る限りの誠意を示して来た。我々の誠意は通じたのだ。

諸君! この難問題で示したあの美しき一致協力の精神を忘れず、若さを十分に生かし、ファイトをもち自信をもって、前途の難事に体当たりしていかうではありませんか。我々の行く手には目に見えぬ、無数の難敵が待ちかまえている。手をとりあつて、薬学の発展のため、人類の福祉に貢献するため、お互いにたゆまぬ努力をつづけましょ。

最後に、この創設薬学科に温かい手をさしのべて下さり御理解ある御力添えを下された方々に「あみこす」誌上より厚く御礼申し上げ、今後とも変らぬ御支援を心から念願致します。

傍観者という曲者

—誠実を貫くのは難しい—

村田正弘

「季節風の彼方に」という映画をみた。佐藤鉄章氏の同名小説の映画化で題名から、亦関川監督の演出からいって直ちにリアリスティックな内容はすぐ判断される。東北の一山村を背景に久我美子の紛する那村という女教師をヒロインとして僻地教育問題にスポットをあて、日本の貧困性とそれと闘う教師の努力という恰好の題材を採り上げたものである。もともと内容に惹かれて入ったわけでもないのに、私はこの映画の投げかける不思議な魅力にひかれ、なんともやり切れない気持ちになってしまった。映画の持つ芸術価値とか報道性とかいったものは、今さておくとして、私が興味を惹かれるのは次の二点である。即ち一つは日本の山村に於ける救い難い程の後進性をフィルムという生々しい手段で訴えられたことであり、もう一つは映画が主題として訴えた誠実という言葉がこの映画を離れて他の局面に於いてもひどく関連を持つ様に思われたからである。前者については、以前から多少関心を持っていた問題で、浅薄ながら想像を絶する一働いても働いても貧しい一あの貧困や、この映画には余り出ななかったが僻地の人々の驚くほどの無知、或いは又都市に於けるスラムの怠惰や不潔は人間社会の持つ恥部で、憲法による最低生活の保障とか後進地総合開発とかいった経済的、政治的理論解決を受け付けない問題ではないかと考え、二三感想もあるがこれは他の機会にゆづるとして後者について少々のべてみたい。

話を進める都合上しばらくストーリーを追うことを許していただく。大学を家の貧しいが故に諦め山村の中学校の助教となった那村は恩師の「誠実」という言葉を守って、前任者の意志を継ぎ、ひたむきな愛情を子供達に注いでいく。ところがその結果としてあらわれてきたのは学校当局との対立である。即ち那村助教の純粋な気持は図書費の不足の問題を機に現実の世界には受け入れられないことになる。校長は自己の立場上事勿れ主義を頑迷に通し、これを破ろうとする若い助教諭那村をついに左遷する。この際一番の曲者は第三者と自称する他の先生方である。彼等は決して第三者ではなく、この場の当事者であるのに拘らず、那村先生の考えを正しいとしながら、積極的に賛成助力しようとは決してしないのである。彼等も亦自己の利益を守らねばならないからである。自己の誠実をつくそうとする、言い換えるならば自分自身に偽らないでいこうとすれば、それは従来の権威、慣習、皮肉な観方をすれば秩序に挑戦することであり、実際には上役、先輩、同僚果ては友人とまで対立抗争しなければならぬとはよくよく因果なことである。敢えてこの極めて社会的にみれば危険な冒険を行い自己の意志の強さを試練する勇者が何人いるであろう。勇者は独り雄々しく戦うのみなどというのはそれこそ安易なヒロイズムというべきである。もっともこの勇者には数限りない同情者はあるが、この種の同情は一度暮舎の情勢一つで、次の場面には中絶となって現われる危険極まりないものである。そしてこの映画ではこの俳優こそ他の先生達なのである。—だが現今何とこの種の人間の多いことか。更に悪いことには、自分こそ先見の明ありと自称し、実際、甚々理知的なインテリ層に多いことである。これ等インテリ派と、時が解決するだろう、何とかかなりましようという羨ましきオプティミストがその大部分を占める現

代社会で、人の良い誠実派がアカ呼ばわりされたり、左遷されたり、茨の道を歩みながら伝統の城壁に守られた古い権威に十字軍的な戦いを挑んでいるのである。戦いの前途は明るくはない。歴史がそれを如実に語っている。過去何十年という間この戦況は変わらず、誠実派の痛々しい犠牲は後を絶たない。然しどうして又この不利な誠実派に飛び込んでいこうとする勇者がなくならないのだろうか。そこに人間が一度は自分の少し大げさにいえば正義感を貫こうとする本能的気持が原因といえないことはないだろう。この正義感も少年期を過ぎるとそれを阻む余りにも巨大な障害に圧倒され、諦めや自暴の段階を通り、血闘は逃避となり、対法は同化順応となってやがては枯淡な然し迫力のない茶室草庵に起居する如き日本のインテリが生れるのである。そして彼等は自己の採った手段を最も利巧な人間のたどる処世術とこころえ、後につづく若き英雄達をセンチメンタルな理想主義とからかい、時折アルコールの助けを借りて体内の不満を昇華させるのだ。困ったことにはこのインテリ層の年令が近年とみに若くなり、我々学生の中にさえ見受けられるようになったのは残念に思う。少くとも若い間は自分の心中正しいと思うこと、常識的にみてもとるべき道は勇敢に踏み出してみたい。それは行きすぎや誤った方角のことでもないとはいえない。然しそれでもよいのではないか、それこそ時が事の正しさを知らせやがては正しい軌道に乗せてくれるであろう。自己の利益を無視して自己の主義に生きる、多少きざっぽいがそれもよいのではないか。

日本は戦前、戦中と誤った道を歩んでしまった。敗戦という尊い洗礼を受け新しく正しい道を歩み出した日本は再び大きな試練の前に立っている。勤務評定問題を始め学問の自由に対する圧力は次第に強まって来ている。戦前の日本のインテリ層は、戦争を拒否し、学問の自由を敢然と守らんとした少数の先駆者を見殺しにして、あの泥沼の戦争へ日本を追い込んだ責任をもっている。今こそこの愚かさを繰り返してはならない。国際社会に於ける日本の外交の不一貫性もつまるところの岸政府の両岸的性格による。はっきりとした態度を打出さぬアメリカ追従はやがてはAAグループの信頼も失い、国際間に孤立することは明白である。残念ながらこの両岸的性格は我々の中にもないといえる自信があるだろうか。もっと筋を通そう。世界は大戦の瀬戸際に来ている。正義は猜疑や狡智に優越する。我々のはっきりした態度の表明こそ大戦回避の唯一の道だと信じる。

映画のフィルムの巻末の「終」の字は問題の一切を解決し、次の楽しい娯楽映画への橋渡しとなるが、現実世界の誠実を貫く課程は終のない苦闘の連続で息の休まる暇もないのは人間の負った宿命なのであろうか。(完)

58.8.7

御会合 = 好適!!

東

キリンビヤホール

電話 (四) 四一〇三



故一色教授をしのぶ

「あみこす」二号誌上より謹んで故一色先生の御霊に申し上げます。

あまりにも突然な御逝去でありました。薬餌の厄介になつたことがなかつたとお聞き致しておりましたので、私達にとってどうしても信じる事が出来ないこととございました。全くあらゆる事が夢のようです。だが今となつては信じなければならないということは何と悲しいことでしょう。

昨年十二月江陽会館に於いて催されました親睦会の時には、あれほど御元気な姿で我々学生の愚問に一つ一つお答えになつておられました。あの時の親身になつて話して下さいた御言葉が先生の最後の御言葉になろうとは何人が想像し得たでありましょうか。人生無常とはいえ、あまりにもはかない現実でございます。今となりまして、いかに愛惜の念がおこりましても、先生の御霊を再び返すよしはなく、万斛の涙も先生の永の眠りをさますにたりないことは存じながら、矢張り、親に先立たれた子供のよるべなき悲嘆のせきをとどめようがありません。新入生の若々しい、希望にあふれた勇姿を御覧になれなかつたのは先生もさぞ心残りのことでしょう。

先生とお会い致しましたのはただ一度でございましたが、何年もの間一諸に勉強した如き師弟の愛情が感じられ、惜別の念を禁じ得ません。新設薬学科のための血みどろの奮闘がかえつて先生の一生を短くなくさつたのではないかと思ひ、謹んで哀悼の意を表します。しかし薬学界に残された数々の偉大な功績は貴重な文化遺産として人類の福祉に多大の貢献をなすことを固く信じてやみません。

ここで徒らに嘆きかなしむのをやめ、全員一致団結して必ずや東北大学医学部薬学科を日本一の薬学科いや世界一の薬学科にいたすことを学生全員誓つてお約束致します。又これが先生の御心にかなう唯一の道と考えます。

先生の御心配なされた校舎問題も諸先生方の御理解並びに御努力と学生全員の奮闘によつて、この度円満に解決しました。

どうか御安心して安らかにお眠り下さい。そして私達の希望に満ちた将来をお守り下さい。

東北大学医学部薬学科学生一同



◆この「あみこす」第2号編集の趣意は薬学的雰囲気を感じ上げることにあった。

十分とはいえないまでもそういう原稿があり、不足な所は意気と熱意で補い得たと思う。尚細部に於ては批判の声も聞かれるかも知れないが、そういう点は次号に期待をかけることにしよう。

◆本誌の完成は1・2年学生の汗の結晶である。皆一致協力してやってくれた。この熱意とチームワークがあったからこそ1ヶ月程の超スピードで出来たのだと思う。創設時の我々にとっては何よりも全学生の「若さ、フアイト、協力、友愛」の精神が必要欠くべからざるものである。そういう意味で本誌の作成が我々薬科学生の従横の連繋の一端となり得、共に学ぶ共通の広場となり得たことを嬉しくおもうのである。

◆昨年四月、創設されたというだけで、多難な前途が予想される我が薬学科に大学当局の多大な御配慮によって、岡崎教授が御赴任なされ、専門課程の校舎として、医学科校

舎に一応の決着をみるに至ったことは我々学生にとって、非常に嬉しいことである。本誌はこれまでの校舎問題を大きくとり上げ、特集の形として掲載した。

◆仙台国立病院副院長、中沢先生を訪ねて、いろいろとお話を伺った。先生は東北大学医学部医学科の第一回生として御修学なされたので、当時の医学科と我々薬学科の現状とに共通点、あるいは似通った問題があることと思ひ、何かと参考に供する目的で訪問してみた。先生は、この薬学科設置の目的と使命とを詳しく説明して下さいました。

◆編集部の責任のもてる限りに於いて、誤字、不明の箇所は訂正を行い、又紙数の関係で編集部に寄せて下さった原稿の一部を割愛せざるを得なかつた事を御了承下さる様御願ひ致します。

◆最後に、広告の名目で多額の御支援を下さされた各位に厚く御礼申し上げます。今後とも、深い御愛顧をたまわりたく、よろしく御願ひ致します。某会社の学術課長にあつては、かえつて激励叱咤してくれた程だつた。我々は期待されている。我々は責任をもって、我々の義務を果さねばならぬ。自愛の念をもって成長せねばならぬ、互いにムチ打ち合つて努力してゆこう。

表 紙

アミコスも二号を発行するに至り、一部ではあるが専門的な記事も見え、又将来の薬学科の専門誌に連なる事を考慮し、専門誌的色彩を出す為に原子結合のコンビネーションの形で描いてみた。

勿論原子の結合は不自然ではあるが、人によってはこれはシャボン玉、或いは雲の様な感じを受けるかもしれせん。

注 アミコス(ラテン語AMICOS)は友達、味方を意味する。(戸引)



あみこす 2号

1958年8月30日 印刷
1958年9月1日 発行

発行者 東北大学医学部薬学科
編集責任者 早坂 鉄太郎
印刷所 KK 針生印刷製本所
仙台市花京院通39
電話(2)3388(2)6644

1958年9月1日

初秋の香り....四季の味

ドリツプ・コーヒー

お待合せに	ブルーマウンテン	¥80
憩いのひとときに	モカ	¥70
どうぞ	コロムピヤ	¥70

日乃出会館 コーヒースタンド
(プレイガイド脇)

クスリの御用は

株式会社 北村薬局

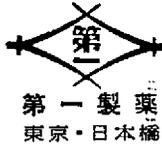
仙台市錦町25番地
TEL ③ 2634

肝臓と副腎強化に 新発売 パント錠

パントテン酸製剤

- ★パント錠の主成分パントテン酸は、他の成分と共に、肝臓の分泌機能、代謝機能、解毒機能、血液成分生成機能など、あらゆる働きを旺盛にし、肝臓病の予防、治療に卓効を奏します。
- ★パント錠はあらゆるストレスに反応して、副腎のホルモン分泌機能を旺盛にし、身体の防衛力をたかめます。
- ★パント錠は新陳代謝を円滑にし、疲労を回復させ、生体に活力を与えます。

20錠 300円 100錠 1,200円 (1日1~2錠服用)



アドレクロームとセミカルバドとP.V.P.の複合剤

止血 静注専用

アドレクロームは血液凝固能に影響せず
に止血・血管強化作用があることが知られ
ている。之に最近の研究によつてP.V.P.
は優れた破綻解毒作用、利尿作用と血液成
分に影響しない強力な止血作用が明らかに
された。之の二つを組合せて、毒性、副作
用のない止血並びに抗アレルギー作用を発
揮する新製剤である。

- 各科出血の予防並びに治療
- 火傷・湿疹等の分泌抑制
- ショック・各種アレルギー性疾患治療
- 各科手術の前夜

アドバン-V

健保点数

静 A地区 17
B 〃 18

(包装) 10cc 10管



販売元 杏林薬品株式会社

東京都中央区日本橋四丁目六番地



三共株式会社

健康と長寿のため
今年は
もっとビタミンを



日本人の平均寿命は六五、六才、欧米人は七一・三才……私達が短命なのもビタミン不足からと云われています。食生活が改善されたとはいえ、食事だけで十分な栄養をとることは、なかなか困難です。

今年こそミネビタールで十分に栄養を補い、健康と長寿を大切にしましょう。

ミネビタールは必要なビタミンやミネラルが肝臓エキスのもので、早く無駄なく身にたく新形式の総合ビタミン剤です。

三〇錠 (三〇〇円) 一〇〇錠 (八五〇円)

総合ビタミン剤

ミネビタール

高単位配合 強力ミネビタール

昭和33年4月28日 J~154

リウマチ
喘息
皮膚疾患
ネフローゼ
眼疾患など

〔健保適用〕

- ★コルチゾンの約5倍強力。従つて臨床上、コルチゾン・ハイドロコルチゾンに比し著しく少量で迅速、強力、的確に奏効する。
- ☆電解質代謝障害による副作用（浮腫・心臓衰弱など）はほとんどない。
- ☆Cortisone escape および副作用で治療を継続できない患者にも、優れた効果を發揮する。
- ☆局所症状の治療には（リウマチに）関節腔内注入用、（皮膚疾患に）軟膏が効果的である。

強力合成副腎皮質ホルモン剤

プレドロン

(プレドニゾロン)

錠剤:5mg10錠 30錠100錠, 1mg 30錠 100錠 注入用:125mg
バイアル入 軟膏:0.5% 10g, 0.25% 10g 3g 100倍散



塩野義製薬株式会社



メチオニンを配合・ビタミンを増量した

新製品!

時に消費量の多い重要ビタミンを増量し、また肝臓の働きを活発にしてビタミンの作用を更に有効化するため強肝薬メチオニンを配合しました。ビタミンとメチオニンの協力作用により効果は一層強力になりました

★総合ビタミン剤

強カパンビタミン

価格 50錠 (350円) 100錠 (950円)

ほかに… ミネラル入強カパンビタミンM、パンビタミン液・末
 大阪市東区道修町 武田薬品工業株式会社 (P12)

ウロコ印



武田薬品

さらに

進歩した…精神安静剤

苦味がなく、習慣性のない

トランザー

【2・エチルクロトニール尿素製剤】



トランザーは、鎮静作用が極めて強く催眠作用は殆どないので、精神安静の目的に最も適した薬物です。

トランザーは、苦味がなく胃腸障害などの副作用がありません。また、長期間使用した例でも、習慣性や耐性が認められず、安心して使用して頂けます。

(粉末: 25g 至 1200)
 (錠剤: 15錠、50錠、100錠)

【文献送呈】

東京日本橋本町

中外製薬株式会社



中外製薬